

令和4年度 事業報告

I. 法人運営の状況

1. 社協運営

少子・高齢化や人口減少、コロナ禍により、地域や家庭のつながりがぜい弱化する中、個人や世帯が抱える生きづらさやリスクが複雑化・多様化し、相談窓口や地域福祉活動、在宅福祉サービス等の現場でも、対象者や分野別の福祉制度では解決が難しい地域生活課題が、以前にも増して広がっています。国においては、市町村における包括的支援体制の構築を進めるため、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を柱とする重層的支援体制整備事業の制度を設けました。

こうした中、「すべての地域住民が、住み慣れた地域で、安心して暮らせるようお互いが支えあっていく地域社会を築く」を基本理念とする美咲町社協は、第2期地域福祉活動計画に基づき、「ともに生きる地域社会」＝「地域共生社会の実現」に向け、様々な事業・活動を展開してきました。

令和4年度においても、地域福祉推進の中核組織としての自覚と責任の下、コロナ禍により様々な事業・活動が制約される中、日程変更や縮小等内容を再検討し、事業・活動に取り組みました。また制約がある中でもアウトリーチの実践による地域の生活課題・福祉課題の早期発見に努め、その解決に向けた取組みを住民、ボランティア、各種団体や行政、関係機関と連携・強化し、実効性のある事業・活動をこれまでの取組みを活かしながら進めました。併せて、美咲町内の社会福祉法人等の組織化を図り、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会の実現に向けて、住民と共に地域の福祉ニーズの解決のため、それぞれの専門性を活かしながら、「地域における公益的な取組」について協働し、制度の狭間の課題を解決する仕組みづくりや支援を行うこと、また相互の連携を図ることを目的とし、美咲町社会福祉法人等連絡協議会（あったかこころネットみさき）を構築することができました。

在宅福祉サービスでは、要介護・要支援状態にある方が、住み慣れた地域でその人らしく、安心して暮らし続けることができるよう事業を精査・見直し、通所介護事業・訪問介護事業・居宅介護支援事業・地域密着型特別養護老人ホーム事業の運営にも積極的に取り組みました。併せて、経営難である事業所に対しては、経営改善計画を作成し、行政・関係機関にも協力を求め経営改善に努めました。

2. 役員会等の開催状況

(1) 理事会(理事 12名)

開催日	場所	主要付議事項
○第1回 令和4年 4月21日(木) 理事 9名出席 監事 2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・経営改善について ・第1回評議員会の開催日時及び議題について
○第2回 令和4年 6月2日(木) 理事10名出席 監事 2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・令和3年度事業報告について ・令和3年度一般会計収支決算について ・令和4年度一般会計収支補正予算について ・定時評議員会の開催日時及び議題について 【報告】 ・会長の職務執行状況について ・第11回美咲町社会福祉大会について
○第3回 令和4年 8月19日(金) 理事10名出席 監事 2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・令和4年度一般会計収支補正予算について ・「理事選任候補者の推薦」について ・「評議員選任候補者の推薦」について ・評議員選任・解任委員会の開催日時及び提出議題について ・9月度評議員会の開催日時及び議案について ・第11回美咲町社会福祉大会について ・第11回美咲町社会福祉大会における表彰者について 【報告】 ・令和3年度～7年度社会福祉充実計画について ・特養あさひが丘等の給食業務の委託について
○第4回 令和4年 10月14日(金) 理事11名 監事 2名	決議の省略	【協議】 ・「理事選任候補者の推薦」について ・開催日時及び議案について

<p>○第5回 令和4年 11月9日(水) 理事12名出席 監事1名出席</p>	<p>中央ふれあいセンター 2階会議室</p>	<p>【議案】 ・令和4年度一般会計収支補正予算について ・11月度評議員会の開催日時及び提出議案について</p> <p>【報告】 ・会長の職務執行状況について ・中間監査報告について ・旭地区福祉センター給食業務委託について ・新庁舎事務所移転について</p>
<p>○第6回 令和5年 2月7日(火) 理事12名 監事2名</p>	<p>決議の省略</p>	<p>【協議】 ・「評議員選任候補者の推薦」について ・「評議員選任解任委員会」の開催及び提出議案について</p>
<p>○第7回 令和5年 3月14日(火) 理事12名出席 監事2名出席</p>		<p>【議案】 ・生活福祉資金貸付(小口貸付)事業の徴収不能金の対応について ・令和4年度一般会計補正予算(第4号) ・令和5年度事業計画 ・令和5年度一般会計予算 ・管理者の選任及び解任について ・3月度評議員会の開催日時及び議題について</p> <p>【報告】 ・令和4年度社会福祉法人指導監査の実施結果について ・美咲町社会福祉法人等連絡協議会の設立について</p>

(2) 評議員会(評議員 15名)

開催日	場所	主要付議事項
<p>○第1回 令和4年 5月6日(金) 評議員15名出席 理事3名出席 監事2名出席</p>	<p>中央ふれあいセンター 2階会議室</p>	<p>【議案】 ・経営改善提案書について</p>

<p>○第2回(定時評議員会) 令和4年 6月17日(金) 評議員13名出席 理事 2名出席 監事 1名出席</p>	<p>中央ふれあいセンター 2階会議室</p>	<p>【議案】 ・令和3年度事業報告について ・令和3年度一般会計収支決算について ・令和4年度一般会計収支補正予算について 【報告】 ・会長の職務執行状況について</p>
<p>○第3回 令和4年 9月5日(月) 評議員13名出席 理事 3名出席 監事 2名出席</p>	<p>中央ふれあいセンター 2階会議室</p>	<p>【議案】 ・令和4年度一般会計収支補正予算について ・「理事の一部選任替え」について ・令和3年度～7年度社会福祉充実計画について 【報告】 ・第11回美咲町社会福祉大会について ・特養あさひが丘等の給食業務の委託について</p>
<p>○第4回 令和4年 10月26日(火) 評議員15名</p>	<p>決議の省略</p>	<p>【議案】 ・「理事の一部選任替え」について ・共同募金委員会「運営委員の一部選任替え」について</p>
<p>○第5回 令和4年 11月18日(金) 評議員13名出席 理事 3名出席 監事 2名出席</p>	<p>中央ふれあいセンター 2階会議室</p>	<p>【議案】 ・令和4年度一般会計補正予算について ・共同募金委員会「運営委員の一部選任替え」について 【報告】 ・中間監査報告について ・旭地区福祉センター給食業務委託について ・新庁舎事務所移転について</p>
<p>○第6回 令和5年 3月23日(木) 評議員14名出席 理事 2名出席 監事 2名出席</p>	<p>中央ふれあいセンター 2階会議室</p>	<p>【議案】 ・生活福祉資金貸付(小口貸付)事業の徴収不能金の対応について ・令和4年度一般会計補正予算(第4号) ・令和5年度事業計画 ・令和5年度一般会計予算 ・管理者の選任及び解任について 【報告】 ・管理者の選任及び解任について ・令和4年度社会福祉法人指導監査の実施結果について ・美咲町社会福祉法人等連絡協議会の設立について</p>

(3) 監査(監事 2名)

開催日	場所	主要付議事項
令和3年度棚卸監査 令和4年 4月1日(金) 監事 2名出席	中央地区福祉センター 美咲町中央保健センター 旭地区福祉センター 柵原地区福祉センター	・10月～3月下半期の各センター内事業所等の備品管理及び小口現金、寄付金、預かり金、切手管理について、棚卸等監査を実施
令和3年度 監査 令和4年 5月23日(月) 監事 2名出席 事務局職員3名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	・令和3年度事業報告書の監査 ・令和3年度資金収支計算書の監査 ・令和3年度貸借対照表の監査 ・令和3年度財産目録の監査 ・その他
令和4年度中間棚卸 監査 令和4年 9月30日(金) 監事 2名出席	中央地区福祉センター 美咲町中央保健センター 旭地区福祉センター 柵原地区福祉センター	・4月～9月上半期の各センター内事業所等の備品管理及び小口現金、寄付金、預かり金、切手管理について、棚卸等監査を実施
令和4年度中間監査 令和4年 11月4日(金) 監事 2名出席 事務局職員3名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	・4月～9月上半期の法人運営、地域福祉事業、介護保険事業等の業務執行状況について及び予算の執行状況について監査を実施

(4) 評議員選任・解任委員会(選任・解任委員 5名)

開催日	場所	主要付議事項
○第1回 令和4年 8月26日(金) 委員 5名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・評議員の選任について
○第2回 令和5年 2月17日(金) 委員 5名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・評議員の選任について

(5) 共同募金運営委員会(運営委員 12名)

開催日	場所	主要付議事項
○共募助成交付式 ○第1回 令和4年 6月2日(月) 理事10名出席 監事2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	令和4年度赤い羽根共同募金助成交付 【議案】 ・令和3年度共同募金事業報告・決算について
○第2回 令和4年 8月26日(金) 理事10名出席 監事2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・令和4年度赤い羽根共同募金運動の展開について ・令和4年度赤い羽根共同募金運動の事務処理について ・令和4年度赤い羽根共同募金運動の助成事業(令和5年度分)について
○第3回 令和4年 11月9日(水) 理事10名出席 監事2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・岡山県共同募金会美咲町共同募金委員会の副会長の互選について ・令和5年度美咲町共同募金委員会運営委員会の委員選任(案)について ・令和5年度美咲町共同募金委員会審査委員会の委員選任(案)について
○第4回 令和5年 3月14日(火) 理事12名出席 監事2名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【報告】 ・令和5年度赤い羽根共同募金助成事業助成審査結果について 【議案】 ・令和5年度赤い羽根共同募金配分助成計画について ・令和5年度赤い羽根共同募金事業計画について

(6) 共同募金運営委員会監査(監事 2名)

開催日	場所	主要付議事項
令和3年度 監査 令和4年 5月23日(月) 監事2名出席 事務局職員3名出席 担当職員2名出席	中央保健センター	【議案】 ・令和3年度共同募金事業報告・決算、監査

(7)共同募金委員会審査委員会(審査委員 8名)

開催日	場所	主要付議事項
○第1回 令和5年 3月7日(火) 委員 8名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	・美咲町共同募金委員会審査委員長選任について ・令和5年度赤い羽根共同募金助成事業助成審査について

(8)職員研修等

開催日	場所	研修内容等
新人職員研修会 令和4年 4月18日(金) 職員28名出席 行政 5名出席 発表者 9名出席 役員 1名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	・社会福祉協議会について ・権利擁護事業について ・地域福祉事業について ・地域包括支援センターについて ・居宅介護支援事業所について ・訪問介護事業所について ・通所介護事業所について ・地域密着型特別養護老人ホームについて
職員研修会 令和4年 8月30日(火) 23名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	・認知症サポーター研修 講師:地域包括支援センター 原由香氏
職員研修会 令和4年 9月13日(火) 27名出席 令和4年 9月16日(金) 23名出席 令和5年 1月26日(木) 20名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	・人事評価勉強会 講師:くらし安全課課長代理 須々木 珠己氏

(9)美咲町内社会福祉法人ネットワーク設立検討会

開催日	場所	主要付議事項
○第1回 令和4年 7月20日(水) 3法人 6名出席 アドバイザーとして 岡山県社協 1名出席	中央保健センター 相談室	【議案】 ・地域における公益的な取組みを一体的に取組むための共通認識について ・先進的な地域における公益的な取組みについて ・各法人の活動・課題等情報交換について
○第2回 令和4年 11月15日(火) 3法人 7名出席 アドバイザーとして	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・社会福祉法人ネットワーク設立について ・ネットワークでの地域公益的な取組み・活動について

岡山県社協 1名出席		
○第3回 令和5年 1月20日(火) 3法人 6名出席 アドバイザーとして 岡山県社協 1名出席	中央ふれあいセンター 2階会議室	【議案】 ・社会福祉法人ネットワーク設立について 美咲町社会福祉法人等連絡協議会会則(案)確認 役員選定、会費について 愛称について 設立総会日程について ・ネットワークでの地域公益的な取組み・活動について
○設立総会 令和5年 2月20日(月) 3法人 6人出席 岡山県社協 1名 事務局 4名 来賓 町長、議会議長出席 ○記念セミナー 約45名参加	中央保健センター 相談室 他 中央保健センター 大講義室	【議案】 ・美咲町社会福祉法人等連絡協議会会則について ・美咲町社会福祉法人等連絡協議会役員相互選について ・美咲町社会福祉法人等連絡協議会事業計画について ・美咲町社会福祉法人等連絡協議会の愛称について 【講師】 真庭地域社会福祉法人連絡会「まにわささえ愛ネット」事務局 國米 みどり 氏 【演題】 真庭地域社会福祉法人連絡会「まにわささえ愛ネット」の取組み

◎職員体制

- ・相談役 1名
- ・事務局長 1名
- ・総務課長 1名
- ・総務課職員 3名

II. 地域福祉事業

(1) 地域福祉活動の推進

1. 小地域ケア会議、小地域福祉活動の促進

日常生活圏のなかでの見守り・声かけ活動、地域での福祉活動を通して発見された生活課題や困りごとについて話し合い、解決策を見出すための仕組みづくりの促進・充実、さらに解決に向けての活動が進められるように、地域住民、美咲町、地域包括支援センター及び介護保険事業所の連携に努めました。

(1) 小地域ケア会議開催状況

開催単位：自治会単位83%開催

中央地区(24自治会)	柵原地区(42自治会)	旭地区(15自治会)
20自治会	33自治会	15自治会
上半期(4月～9月) 開催予定数79 中止及び延期12 実施数67		
下半期(10月～3月) 開催予定数96 中止及び延期9 実施数87		
合計154回		

構成メンバー：自治会長、民生委員児童委員、常会長、老人クラブ、愛育委員、栄養委員、ボランティア、サポーター、サロン代表者、地域包括支援センター職員、美咲町社協職員等(地域ごとに構成メンバーを決定している。)小地域ケア会議開催が難しいところには、サロン活動、コロナ体操、サポーター会合等に参加し情報共有・連携の強化に努めました。また、柵原地域については民生委員地区会(北和気地区・南和気地区・吉岡地区・本庁地区・飯岡地区)に参加し情報共有、連携の強化に努めました。(開催回数に含む。)民生委員児童委員中央・旭・柵原支部の定例会(開催回数に含まない。)

(2) 赤い羽根小地域ケア会議推進助成事業～みんなで地域づくりを応援しよう～

小地域ケア会議の取組みの中で、地域共生社会の実現に向けた地域課題の解決に向けた取組みを美咲町内の団体より公募方式で募集し、予算の範囲内(1団体3万円)で助成を行いました。
※助成対象：美咲町内で小地域ケア会議に取り組んでいる団体・これから取り組む団体であり、その小地域ケア会議の協議の中から出てきた地域課題の解決に取り組む団体

① 助成実績

中央地区(24自治会)	柵原地区(42自治会)	旭地区(15自治会)
16自治会	28自治会	14自治会
合計58自治会		

② 赤い羽根ちいきふくし活動新聞の作成

地域で取組まれている様々な福祉活動の報告の場を設け、活動の重要性を再確認や情報共有・活動のさらなる活性につなげることを目的に「赤い羽根ちいきふくし活動新聞(第3号)」を発行しました。また、取組みを行われていない地域に対しても働きかけを行うきっかけづくりとして全戸配布を行い、地域づくりの発展に努めました。

【掲載地域・内容】

地区	地域	内容
中央	金堀	地域みんなで見守り
旭	小谷	地域掲示板の取組み
柵原	安井	安井みまもり隊

配布日 令和5年6月(美咲町広報と同封)

作成数 6,000部(全戸配布)

2. 小地域福祉活動の支援

子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、地域で暮らす誰もが身近な場所で、気軽に集い、語り、ふれあい交流のできる居場所づくりや生きがいづくりを支援し、これらの機会を通して、見守り・声かけの意識の醸成にも努め、お互いに助け、助けられる関係づくりにも努めました。

(1) ふれあいサロンの立ち上げ支援・運営支援

コロナ禍によりふれあいサロンを運営している代表の方へ向けて、“サロン助成金の使用用途”と“レクリエーショングッズの啓発”を記載した「ふれあいサロンのヒント集パート3」等を作成し、これからのサロン活動に向けての後方支援と意識啓発に努めました。また、ふれあいサロン活動の運営支援のための助成を行い、ふれあい交流促進支援を行いました。

※県や町から感染防止対策の依頼があった時期に関しては、サロン活動に関しても感染防止対策実施についての依頼文を通知しました。(令和4年8月、9月、12月、令和5年3月)

ふれあいサロンの活動状況

地区名	サロン数	延べ参加者数	備考
中央 (48)	加美地区	16	1,125人
	三保地区	13	1,102人
	打穴地区	9	487人
	大井和地区	9	383人
	男性サロン	1	0人
柵原 (42)	北和気地区	9	805人
	吉岡地区	12	1,020人
	南和気地区	9	373人
	本庁地区	8	1,237人
	飯岡地区	4	593人
旭 (23)	倭文西地区	4	287人
	西川地区	6	890人
	井和地区	8	917人
	江与味地区	4	346人
	手芸クラブ	1	224人
子育てサロン	2	462人	
障がい児者支援サロン	1	0人	
笑いのサロン和(難病)	1	108人	
計	117	10,359人	

○ふれあいサロンヒント集パート3の作成

サロンを運営している代表の方を対象に、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら継続的に

サロン活動を行ってもらえるよう情報提供と後方支援を目的に作成しました。

【内容(A4用紙 8ページ表紙含む)】

1. ふれあいサロン助成金の使用用途
2. レクリエーショングッズの啓発
3. 美咲流コロバン体操2020の啓発

○アルコールウェットティッシュの配布(117団体対象)

○ふれあいサロン代表者研修会の開催

サロン代表者を対象に、活動の情報交換・課題解決に向けた情報提供を目的として開催しました。上期は3地域ごとで研修を開催しました。下期はふれあいサロンと通いの場を総称して『つどいの場』とし、それぞれの代表者に一堂に会していただく形で研修会を企画しました。

【3地域別代表者研修会(上期)】

研修会の感想や、普段のサロンでの取組みについてのアンケートを実施しました。

実施日	地区	参加者数	内容
令和4年 5月31日(火)	旭地区	19名	①「コロナに負けないサロン活動！」 講師:直原 一美 氏(笑いヨガ) ②助成金等についての事務連絡、相談会
令和4年 6月 7日(火)	柵原地区	35名	
令和4年 6月16日(木)	中央地区	39名	

【3地域別代表者研修会(下期)】

ふれあいサロンと通いの場を、「地域のつどいの場」として、それぞれの代表者に一堂に会していただき、下記の研修内容で実施予定でしたが、悪天候のため当日判断での中止となりました。下期で行う予定であった内容は、令和5年度のふれあいサロン代表者研修会で実施予定です。

実施日	地区	参加者数	内容
令和5年 2月10日(金)	3地区 合同		①みんなでできる体操をしよう！ 講師:津山市健康増進課 安本 勝博 氏 ②フレイルについて学ぼう！ 講師:美作大学社会福祉学科 特任教授 小坂田 稔 氏 ③連絡事項など ④通いの場代表者同士の交流会

【ふれあいサロンヒント集 パート3作成】

●内容 8ページ表紙含む

①『ふれあいサロン活動について』

ふれあいサロン活動の説明と町内で活動している団体数等について周知しました。

②『令和4年度ふれあいサロン代表者研修会 アンケートについて』

令和4年度のふれあいサロン代表者研修会の報告と、参加者の声、アンケートの結果について記載しました。

③『ふれあいサロンへの助成金の使い道について』

ふれあいサロンへの助成金の使用方法についての問い合わせが多いため、事例を基に助成金の使用例や規程を記載しました。

④『レクリエーショングッズ貸し出し中！』

美咲町社協で貸し出しができるレクリエーショングッズについて、写真付きで掲載しました。

⑤『美咲流 コロバン体操2020』

代表者研修会で実施したアンケート結果をもとに、美咲流コロバン体操2020の紹介や、ポスターとDVDの啓発について記載しました。

(2)居場所づくり応援プログラム「ワンデイカフェ」開設・継続支援

空き家や空き店舗、個人宅、コミュニティ等を活用して、町内に5ヶ所の固定のワンデイカフェが継続開設され、開設にあたっての相談・助言等を行い、気軽に集える場・悩みが相談できる場・役割が持てる居場所づくりができるよう活動支援を行いました。

○ワンデイカフェ開店状況

地域	団体	場所	頻度	備考
中央	にこにこカフェ	打穴西公会堂等	毎月1回	おしゃべり、喫茶、体操、手芸、各種ミニ講座等。
柵原	楽楽カフェ	公会堂・空き家等	毎月1回	
	みいちゃんの家	空き家	常時/定例日毎月1回	
	サンデイカフェ	公会堂	毎月1回	
旭	えよみ友楽館	空き家・空き店舗	毎週1回(月曜日)	
	如風(集いの家)の会	空き家等	毎月1回	

3. 障がい者支援事業

(1)みしゃモンカレッジ2022

きんちやい☆多おーふんカレッジ アート教室～わたしの世界～in みさき

芸術活動を通して、障がいのある方が主体となって地域で活動していける「場」と地域住民と交流できる「場」を創出し、障がいのある方が生きがいのある生活を送れるよう地域の方々と連帯して自立した社会参加を行えるよう事業を実施しました。また、自分たちの作品を町内で巡回展示したことで日頃の活動意欲の向上にも繋げる支援を行いました。

日時	令和4年9月23日(金・祝) 10:00～12:00		
場所	旭町民センター		
参加者	当事者4名・施設職員1名・地域ボランティア1名・講師1名・職員2名 合計9名		
内容	<p>【内容】美咲町で藍を種から育てて藍染めに取組んでいる美咲町地域おこし協力隊(現在は協力隊としての活動を終えられている。)のマノ・メラニー氏を講師に招き、藍の葉を使った「たたき染め」という技法に取組み、日本の伝統工芸を体験してもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師マノ・メラニー氏より藍の葉の説明があり、参加者は見る・触る・匂うことで感性を研ぎ澄ませ、それぞれ好きな葉を選んで配置し、たたき染めを行った。 完成した作品は、「みんなのアート展示会～わたしの世界 in みさき～」にて巡回展示を行った。 <p>◆巡回展示を実施した開催期間・場所</p> <p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 2月8日(水)～2月22日(水) 9:00～17:00 柵原総合文化センター 玄関ホール 3月3日(金)～3月17日(金) 10:00～18:00 旭図書館 ギャラリー 3月23日(木)～4月6日(木) 9:00～17:00 亀甲郵便局 		

(2) みしゃモンカレッジ2022

みらいちゃれんじ～為せば成る・挑戦・継続は力なり～

(平成29年度1期生6名・平成30年度2期生6名・令和元年度3期生2名・令和4年度4期生2名)

障がいのある方が主になって地域で活動していける「場」を、本人や家族だけでなく地域住民、障がい者福祉施設、行政と連携し、障がいのある方々に多くの夢をもってもらい、いきいきとした生活を送ってもらえることを目的に、地域で「学べる場」、「体験できる場」として3回シリーズでみしゃモンカレッジを開講しました。

また、県内放送(RSK)や全国放送(TBS)でも、みしゃモンカレッジ第3回講座太鼓の達人がニュースで放送され、様々な媒体を活用し、啓発にも努めました。さらに、全国社会福祉協議会の機関紙 NOMA(令和4年3月号)にも取組みが掲載され、社協最前線として注目されました。その機関誌掲載をきっかけに、文部科学省が取組みを評価していただき、令和5年度開催の福祉教育フォーラム(仮称)の障がい者支援の取組みとして、事例を取上げてくださることになりました。

日時	令和4年10月23日(日) 13:30～16:00	令和4年11月5日(日) ※新型コロナが障がい者施設で流行のため延期 令和5年3月5日(日) 13:30～16:00	令和5年1月29日(日) 12:00～15:30 ※新型コロナ・インフルエンザが流行のため次年度に延期
場所	南和気荘	北公民館	ミサキアエル
参加者	<u>合計26名</u> カレッジ長:1名、受講生:7名、カレッジサポーター:11名、講師1名、地域ボランティア2名、職員4名	<u>合計54名</u> カレッジ長:1名、受講生:10名、カレッジサポーター:11名、ジュニアボランティア5名、地域ボランティア13名、報道関係者6名、講師1名、職員7名	参加予定人数 <u>合計40名</u>

内 容	
【1日目】	<p>●開校式</p> <p>体験:和菓子名人になろう!</p> <p>学び:和菓子の成り立ち</p> <p>講師:昭和堂 鈴鹿 博之 氏</p>
【2日目】	<p>体験:太鼓の達人</p> <p>学び:太鼓のいろは</p> <p>講師:元ブルーハーツ梶原 徹也 氏</p> <p>※ジュニアボランティア養成講座共催</p>
【3日目】	<p>体験:1日ホール体験スタッフ～サプライズで家族・友人をおもてなし～</p> <p>学び:お客様をもてなす接客マナー</p> <p>講師:津山信用金庫 小賀 義之 氏、西山 智子 氏</p> <p>キャスト:みしゃモンカレッジ受講生</p> <p>●アトラクション</p> <p>カレッジ生による家族・友人へのサプライズメッセージ</p>

	●4期生卒業式 ●1・2・3期生修了式 ※ジュニアボランティア養成講座共催
移動手段	町の障がい者外出支援の黄福タクシーを活用(イベントタクシー)

(3) みしゃモンカレッジ2022きんちやい☆多おーぷんカレッジ「笑顔のお届け便」

多くの住民に「赤い羽根共同募金」を啓発するために、赤い羽根商品を障がい者福祉施設・団体に作製していただき、地域で行われる行事等で募金活動を行い、障がい者福祉の向上及び住民同士の支え合い活動を地域全体で盛り上げていくとともに、事業や障がい者施設・団体の啓発に努めました。また、障がいのある方と地域住民が触れ合う場として「笑顔のお届け便出店」を行いました。総売り上げ:176,010円/うち募金分37,655円

●各障がい者福祉施設や作業所等が提供する商品を、地域住民が募金するごとに、各種団体が設定する割合が赤い羽根共同募金となる。みしゃモンシール(1シート100円)を商品に貼る。

参加事業所・団体	商品	実施場所
・誕生寺支援学校・さくらの実・ワークみさき・メンタル柵原・さやかなる苑・ほっとスペースすみれ・美咲町障がい者ネットワーク	パン・コーヒー・クッキー・ポップコーン・焼きそば・おこわ・赤飯・フランクフルト・焼き物・アクセサリー・ドライフラワーなど	【笑顔のお届け便出店】 日時:令和4年12月8日(木)～12月9日(金) (2日間) 時間:11:00～13:00 場所:美咲町役場第二分庁舎 障害者ネットワーク共催(協力)

(4) 当事者団体の活動支援

障がい児者、介護者家族等の当事者組織団体の活動支援、連携を図っていくことを目的に、活動支援に取組み、在宅介護者・障がい児者本人の社会参加の場、勉強できる場、精神的ゆとりを生み出す機会づくりなどあらゆる面での支援につながるよう努めました。

【活動支援状況】

美咲町介護者の会	認知症の方や要介護の方で介護が必要な高齢者、障がい等により在宅で介護をしている人、介護を経験(卒業)した人、介護に関心のある人が集まり、お互いの悩みや体験を共有し、また、体験や情報を分かちあう介護者相互の交流の会です。 開会日:毎月第1木曜日開催 会 場:中央公民館・柵原文化センター・旭町民センター他 ・5月12日(木)ヤングケアラー・ダブルケアについての話 ・8月4日(木) 介護者の会とジュニアボランティア交流(百々人形色付け講座) ・9月1日(木) 実習生2名の引率にて参加 ・令和5年3月15日(水)役員会への参加
----------	--

<p>笑いのサロン和<small>(なごみ)</small></p>	<p>病を抱えている本人や支えている家族が、誰にも相談ができず自分で抱え込んでしまった時の心のよりどころ(居場所)として、「気軽に立ち寄れて話や相談ができる場」を目指して活動をしています。 開催日:毎月第4水曜日 13:30~15:30 会場:町内各所(中央公民館等) ・4月27日(水)社会福祉協議会とふれあいサロン活動についての説明を実施 ・5月25日(水)参加、美咲町社協がポッチャを持参</p>	
<p>レインボータートル (本人の会)</p>	<p>○小委員会 開催中止 ○育成会役員会 6月26日 11月13日 ○育成会県大会 11月27日</p>	<p>○活動内容 心身に障がいがあっても、“自分らしく生きていこう”“自らの力を発揮していこう”という思いから、レインボータートル(本人の会)を立ち上げ、仲間同士でレクリエーション活動、映画鑑賞や買い物、また、カラオケ、ボーリング大会等、自分たちがやりたいことを企画実行し、楽しく活動をしています。また、美咲町社協等の事業運営にも協力・支援を行い、積極的に地域交流活動も行っています。 令和4年度は新型コロナウイルスの影響で全体での活動はありませんでしたが、会長が手をつなぐ育成会岡山県大会本人大会(いばら会場)の司会を務めました。</p>

4. ボランティア活動の推進

住民のボランティア活動への参加促進を図り、地域課題に対して「何か自分にできることはないか」という住民の気持ちを形にできるきっかけづくり・機会づくりとして、人材育成のためのボランティア養成講座、ボランティア活動の情報提供、ボランティアコーディネート、ボランティア保険加入等の推進に努めました。

[美咲町ボランティアセンターの取組み]

(1) あったか心バンク

地域で埋もれてしまっている“声”と皆さまのあたたかい気持ちをつなぐ取組みの一つとして、あったか心バンクを実施しました。美咲町内で生活にお困りの皆さまへ、提供していただいた物品をお届けしました。下記の日時以外でも、生活困窮者事業と連携して、必要に応じて生活困窮者に提供しています。

① 食料支援実績

月	6月	7月	8月	9月	11月	12月	1月	2月	3月
実績	3件	2件	3件	2件	1件	9件	2件	1件	3件

※12月にはフードバンクとして生活困窮者を中心に食料配布を実施

日 時 令和4年12月23日(金) 10:00~15:00

場 所 中央保健センター

対象者 生活福祉資金特例貸付制度利用者等

内 容 お米・レトルト食品・缶詰等

② 食料・家電等受入実績

- ・令和4年9月 旭地域の男性より食料を段ボール4箱分を寄付採納。
- ・令和5年3月 町内・不動産会社・美作大学へ周知を行い、家電などを募集。
 冷蔵庫(1台)・洗濯機(1台)・マットレス(1枚)・扇風機(1台)・掃除機(1台)等を寄付採納。

(2) 赤い羽根ポスターコンクール

P. 44参照

(3) みんなのアート展示会～わたしの世界 in みさき～

赤い羽根共同募金の啓発の取組みである「赤い羽根手作り募金箱」、「赤い羽根ポスターコンクール」、芸術活動を通じて、障がいのある方と地域住民が地域で共に活動できる場として「障がい者アート教室」を行った。こうした美咲町社協の事業に参加していただいた方の作品と個人の書・絵・本の作品を展示しました。地域住民に作品に込められた想いを知っていただくとともに作品から発せられるパワーを感じてもらい、想いをつなぐことに努めました。

日時 場所	令和5年2月8日(水)～2月22日(水)9:00～17:00 柵原総合文化センター 玄関ホール 令和5年3月3日(金)～3月17日(金)10:00～18:00 旭図書館 ギャラリー 令和5年3月23日(木)～4月6日(木)9:00～17:00 亀甲郵便局
出展 内容	① 赤い羽根ポスター 9点 ② 手作り募金箱 29点 ③ 令和3年度障がい者アート教室で作製した百々人形(昨年度のアート展示会で展示できなかったため、今回展示) ④ 令和4年度障がい者アート教室で作製した藍のたたき染め ⑤ みしゃモンカレッジのアルバム ⑥ 個人の書・絵画・本

(4) 災害ボランティアに関する事業

① 災害ボランティア養成講座

近年、自然災害で被災した地域では、社協が災害ボランティアセンターの運営にあたり、地域内外のボランティアと共に被災地の復旧・復興に向け被災者に寄り添った支援活動を行うことが一般化してきました。美咲町社協においても、いつ起こるかわからない災害に備え、災害時に必要な被災者支援活動をオール美咲町社協で考えていく必要があることから本年度も講座を企画し実施しました。

日時	令和5年2月19日(日)13:30～16:00
場所	美咲町農業公社
参加者	町内外のボランティアに関心のある住民、市町村社協職員、町職員、消防団等 計65名 第1期～第7期123名(令和5年3月現在)
内容	「地域防災から学ぶ地域づくり」
講師	講師:一般社団法人ピースポート災害支援センター 関根 正孝 氏

② 災害職員研修会の実施

平常時から災害発生に備えて連携を深めるため、職員研修会を実施しました。併せて、研修会の内容や災害に関するアンケート調査も実施しました。

日時	令和5年1月22日(日)13:00～16:00
場所	美咲町中央保健センター
参加者	町職員9名、美咲町社協役職員34名、講師1名 計44名

内 容	「災害ボランティアセンターマッチング体験カードゲーム」
講 師	一般社団法人ピースボート災害支援センター 遠藤 聡 氏

③他団体との連携強化

令和4年度は、一般社団法人ピースボート災害支援センターとの連携を強化しました。
(令和3年度は、岡山県災害派遣福祉チーム DWAT との連携を強化しました。)

④災害ボランティアセンター運営支援に関する協定

災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定(令和3年度 町と締結済)

近年、災害が頻発化・激甚化するなか、災害発生後、復旧・復興に向けた災害ボランティアの活動は重要になっており、災害ボランティアセンターが担う役割も大きくなっています。今後もさらに他団体とも災害時における連携協定の締結を進めます。

(5)『ボランティア学習動画～ボランティアスクール～』

昨年度、津山市社会福祉協議会と協働してボランティア活動をもっと身近に取組んでもらえるために『ボランティア学習動画～ボランティアスクール～』を作成しました。今年度も引き続き子どもから高齢者まで幅広い年代の方にボランティアについて学びを深める機会をつくり、美咲町内全体のボランティア活動の活性化を図るために活用しました。毎年実施している「夏のボランティア体験事業」では、事前学習に十分に時間が取れず、ボランティアについてしっかり学ぶことができないまま、体験を実施していた現状がありました。「学生向けボランティア動画」を作成することで、“ボランティア”とは何かを知ってもらう機会をつくり、ボランティアの意義やボランティアを行ううえで重要な自主性、社会性等を伝えていくことができました。

内 容	<p>○1時間目 「ボランティアってなに？」 講 師:NPO 法人ファミリーリングあゆむ 飯田 純子 氏 出 演 者:美作高等学校 福祉コース2年生</p> <p>○2時間目 「自分に合ったボランティア」 出 演 者:レインボーメイト 津山 智和 氏/美作大学ボランティアセンターの学生2名</p> <p>○3時間目 「相手の立場に立ったボランティア」 協力施設:・中央福祉会 白寿荘/津山福祉会 特別養護老人ホーム 高寿園 出 演 者:美作高校福祉コース実習生2名/白寿荘利用者/高寿園職員</p> <p>○4時間目 「ボランティアをしたいと思ったら」 出 演 者:美咲町配食ボランティア 村上 氏、西本 氏/美咲町社協職員/津山市社協職員</p>
対 象	津山市、美咲町の中・高生及び夏のボランティア体験事業において毎年呼びかけている鏡野町、久米南町、勝央町、美作市、真庭市の高校生及び美咲町内の住民
実施方法	YouTube に動画を投稿し(URL クリック時にのみ見られる設定で限定公開をする。)、URL を津山市社協 HP に掲載することで、チラシに記載している URL から自宅にいても動画を見ることができます。
受講後	ボランティアスクール受講後について 「ボランティアノート」に記入後、津山市・美咲町社協及び周知先の社協に提出した学生に対して、修了証を交付しました。

(6) シーズンボランティア2022

シーズンボランティア2022は、「施設」ボランティア(施設でのボランティア体験)」と「つ・く・る」ボランティア(季節を感じる作品を作るボランティア)」の2つを実施しました。

「施設」ボランティアは、新型コロナウイルスの感染拡大により、令和4年8月5日以降の受け入れが全ての施設で中止となりました。

「施設」ボランティアが実施できなくなった生徒の中には、「つ・く・る」ボランティアで作品づくりを頑張った生徒もあり、町内の施設にたくさんの素敵な季節を感じる作品を届けることができました。また、施設からいただいたありがとうメッセージを冊子にまとめ、参加された生徒へ配布することで、直接会うことができなくても繋がりを築くことができました。

《参加生徒》

●【「施設」ボランティア】 中央中学校7名、柵原中学校3名、旭中学校4名
津山工業高等学校1名 津山商業高等学校1名 津山東高等学校1名 美作高等学校1名
合計18名

【「つ・く・る」ボランティア】 中央中学校12名、柵原中学校4名、旭中学校1名
津山商業高等学校2名 津山東高等学校2名、美作高等学校1名、津山工業高等学校1名
合計23名

《受入施設》

●【「施設」ボランティア】 白寿荘、中央かめっこ保育園、さくらの実、柵原西保育園、さやかなる苑、スポレク柵原、旭保育園、あなぐま舎
合計8施設

●【「つ・く・る」ボランティア】 白寿荘、わかくさ児童クラブ、静香園、中央かめっこ保育園、さくらの実、中央ふれあいセンター、中央児童館、みさき福祉園、ワークみさき、さやかなる苑、さつきの丘、ケアハウス百寿、柵原東保育園、柵原西保育園、スポレク柵原、エリシウム柵原、吉井川荘、柵原児童館、かしのき荘、ふりーすたいるわくわく、美咲まめのき保育園、美咲町福祉の里あさひが丘、地域密着型特別養護老人ホームあさひが丘、旭児童館、十字園あさひデイサービスセンター、旭保育園
合計26施設

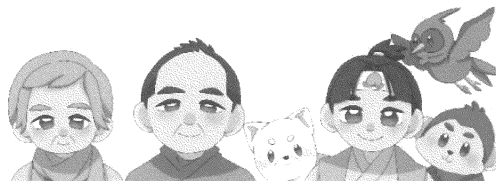
(7) 第4期ジュニアボランティア養成講座

ボランティア活動に関心のある小学生(4年生～6年生)を対象に、本講座から地域でボランティアとして何ができるかを共に考え、また、実践的ボランティア活動の機会を設け、身近な地域での自主的なボランティア活動につなげることができました。また、社会福祉についての理解を深めると同時に、さまざまな出会いの中から新たな発見や「ともに生きていく」ということについて考えることができるようその機会の提供に努めました。(2期生5名・3期生2名)

日時	場所	内容
令和4年 8月4日(木) 10:00～12:30	旭町民センター	<p>【令和3年度に参加できなかった講座の実施】 第3期養成講座「百々人形色付け講座」は、障がい者アート教室とコラボし、令和3年12月18日に第1回目を実施しました(2期生2名、3期生1名参加)。令和4年3月26日に予定していた第2回目講座は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ジュニアボランティアの参加は中止しました。そのため、令和4年度最初のボランティア活動として、今回は介護者の会の皆さんとの交流を行いながら、百々人形の色付け講座を実施しました。また、令和3年度に作製した紙芝居「ももたろう～聴覚障がいのある山本さんとゆかいな4人の仲間たち～」を披露しました。(2期生5名、3期生2名参加)</p> <p>●活動の内容 (1) 介護者の会の皆さんと一緒に百々人形の色付けをしよう! 講師: 百々人形保存会の皆さま (2) 紙芝居を披露しよう～聴覚障がいの理解を広める!～</p>
令和4年 9月10日(土) 13:30～15:30	中央保健センター	<p>【第4期講座 第1回目】基礎講座 NPO 法人ファミリーリングあゆむの飯田 純子 氏に「ボランティアを楽しく学ぼう!」、NPO法人チーム響き阿部 磨呂 氏に「視覚障がい者の気持ち～自分のまちの見え方～」と「グランドソフトボール体験」について講義いただく予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大が懸念されたため、開催を延期しました。</p>
令和4年 10月23日(日) 13:30～16:00	南和気荘	<p>【第4期講座 第2回】みしゃモンカレッジレポーターになろう! みしゃモンカレッジ2022へ参加し、みしゃモンカレッジの取り組みを取材・広報する活動を行った。 ①みしゃモンカレッジ2022「和菓子名人になろう!」 講師: 昭和堂 鈴鹿 博之 氏 講座は予定通り開催しましたが、飲食を伴う講座であり、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、ジュニアボランティアは不参加となりました。</p>
令和5年 1月29日(日) 12:00～15:30	ミサキアエル	<p>②みしゃモンカレッジ2022「ホールスタッフ体験」 講師: 津山信用金庫 小賀 義之 氏、西山 智子 氏 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講座自体の</p>

ももたろう

～聴覚障がいのある山本さんと
ゆかいな4人の仲間たち～



<p>令和5年 3月5日(日) 13:30～16:00</p>	<p>北公民館</p>	<p>開催が中止となりました。</p> <p>③みしゃモンカレッジ2022「太鼓の達人になろう！」 講師:元 THE BLUE HEARTS 梶原 徹也 氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアボランティアの皆さんは、バケツ太鼓を叩きながら参加者との交流を行いました。 ・事前にジュニアボランティアが作製していた花瓶をカレッジ生などにプレゼントした。この花瓶を次年度の講座に持ってきてもらうことで、みしゃモンカレッジとジュニアボランティアの繋がりをつくることができた。 ・講座の最後には、講師の梶原 徹也 氏、カレッジ長の松岡 博史 氏、カレッジ生の赤崎 直貴 氏、片岡 大門 氏、カレッジサポーターの松坂 秀吉 氏にインタビューを行い、みしゃモンカレッジや太鼓の講座についての感想・想いについて話を聴き、参加した皆さんがともに支えあう様子を感じることができた。 <p>●活動の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)障がいのある方たちと一緒にバケツ太鼓を叩きながら交流しよう! (2)みしゃモンカレッジの取組みを取材(レポート)しよう! <ul style="list-style-type: none"> ・後日、ジュニアボランティアがレポートした内容を、ジュニアボランティア新聞としてまとめ、ジュニアボランティア7名に送付した。 ・みしゃモンカレッジやジュニアボランティア活動を広めていくため、今後広報に活用していく。
---	-------------	--



(8) ボランティア活動のコーディネート状況

登録者数	活動件数/活動者数
登録者数は再度見直し中	福祉教育ボランティア13件/11名

(9) ボランティア保険加入状況

種別	加入団体数	加入者数(被保険者数)
ボランティア活動保険	17団体	1,095人
ボランティア行事用保険	3団体	1,005人
送迎サービス補償	0団体	0人
福祉サービス総合補償	1団体	714人

5. 福祉教育の推進

人を思いやり、お互いに支えあい・助け合う心を育み、自分と違う立場の人と認め合い、人の気持ちに共感できる力や自分の考えを表現する力、考えを共有し実行につなげていく力等の「ともに生きる力」をつけていく意識の醸成に努めました。

(1) 小学校における福祉教育の実践

日時	実施学校	対象	内容
----	------	----	----

令和4年 10月20日(木) 13:45~15:20	柵原西小学校 21名	5年生	①視覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:NPO 法人チーム響き 阿部 磨呂 氏、神門 佑弥 氏 体験:グランドソフトボール体験 講座:視覚障がい者の気持ち~町の見え方やユニバーサルデザインについて~
令和4年 11月28日(月) 12:50~15:30	美咲中央小学校 36名	4年生	②認知症について学ぼう ゲストティーチャー:キャラバンメイトの大西 節子 氏、内田 千由紀 氏、石田 章恵 氏、丸山 裕子 氏 ※地域包括支援センター協働 講座:高齢者・認知症について 体験:認知症に関する寸劇
令和4年 12月5日(月) 10:40~12:15	柵原東小学校 17名	3年生	③聴覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:山本 修 氏、山本 知 枝子 氏 講座:聴覚障がいについて 体験:手話で挨拶、指文字、手話以外のコ ミュニケーションについて
令和4年 12月19日(月) 10:30~12:10	美咲中央小学校 36名	4年生	④聴覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:山本 修 氏、山本 知 枝子 氏 講座:聴覚障がいについて 体験:手話で挨拶、指文字、手話以外のコ ミュニケーションについて
令和5年 1月23日(月) 9:35~11:25 13:40~15:15	柵原東小学校 17名 美咲中央小学校 36名	3年生 4年生	⑤視覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:NPO 法人チーム響き 阿部 磨呂 氏、中野 葉月 氏 体験:グランドソフトボール体験 講座:視覚障がい者の気持ち~町の見え 方やユニバーサルデザインについて~
令和5年 2月7日(火) 9:45~10:20	旭小学校 6名	4年生	⑥聴覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:山本 修 氏、山本 知 枝子 氏 講座:聴覚障がいについて 体験:手話で挨拶、指文字、手話以外のコ ミュニケーションについて

令和5年 2月24日(金) 10:45~12:25	旭小学校 6名	4年生	⑦高齢者について学ぼう！ ゲストティーチャー:キャラバンメイトの大西節子氏、丸山裕子氏 ※地域包括支援センター協働 講座:高齢者の気持ちになって考えよう！ 認知症について 体験:高齢者疑似体験 認知症に関する寸劇
令和5年 2月28日(火) 10:45~12:25	旭小学校 6名	4年生	⑧視覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:奥西敦子氏 体験:STT(サウンドテーブルテニス)体験 交流:児童が考えたゲームを実施 講座:視覚障がいとは ユニバーサルデザインについて
令和5年 3月1日(水) 8:30~10:30	美咲中央小学校 36名	4年生	⑨身体障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:藤本満春氏 体験:車いす体験(バスケットボール、らせん走行、校内車イス走行) 講座:ともに生きる～車いすを使っている人について学ぼう～
令和5年 3月10日(金) 13:50~14:35	旭小学校 6名	4年生	⑩あさひが丘との ZOOM 交流 内容:○×クイズ、うらじゃ踊りの披露、合奏 旭小4年生の教室と、あさひが丘デイサービス利用者の皆さんを ZOOM でつなぎ、コロナ禍で直接会えなくても交流することができた。
令和5年 3月15日(水) 13:00~14:35	柵原西小学校 16名	3年生	⑪視覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:奥西敦子氏 体験:STT(サウンドテーブルテニス)体験 交流:児童が考えたゲームを実施 講座:視覚障がいとは ユニバーサルデザインについて
令和5年 3月17日(金) 13:50~15:20	柵原西小学校 16名	3年生	⑫聴覚障がいについて学ぼう！ ゲストティーチャー:山本修氏、山本知枝子氏 講座:聴覚障がいについて 体験:手話で挨拶、指文字、手話以外のコミュニケーションについて

(2) 福祉教育に関する研修会及び報告会

名 称	令和4年度 第1回社協ボランティアセンターアクションプラン推進会議 (ボランティア・福祉教育担当者会議)
開 催 日 時	令和4年7月28日(木)13:00 ~16:30
場 所	きらめきプラザ3階 介護実習室
対 象	市町村社会福祉協議会ボランティア・福祉教育担当者
協 力 者	シチズンシップ共有企画 川中 大輔 氏
内 容	福祉教育推進に向けて、川中 氏より福祉教育実践に必要な視点についての講義をいただき、ワークショップの中で今後の活用方法について学ぶことができました。また、近隣社協の担当職員さんとの意見交換会では、福祉教育を進めえていくうえでの課題を再確認し、意見を交わしながら解決策について考えることができました。

名 称	令和4年度 第2回社協ボランティアセンターアクションプラン推進会議 (ボランティア・福祉教育担当者会議)
開 催 日 時	令和4年10月31日(月)13:30 ~16:00
場 所	きらめきプラザ3階 介護実習室
対 象	市町村社会福祉協議会ボランティア・福祉教育担当者
内 容	ボランティア活動を通じて福祉教育を推進していくにあたり、「夏のボランティア体験事業」の情報交換・共有、事例発表に参加しました。事例発表では美咲町社協として「シーズンボランティア2022」の取組み内容を発表しました。高梁市社協、赤磐市社協からの事例発表も行われました。その後グループに分かれて、施設ボランティアでの施設や学校との連携について、施設ボランティアという型にはまらないボランティアについて等の意見交換を行うことができました。

(3) 地域に根付いた福祉教育の実践

「福祉教育＝学校」という考え方ではなく、地域福祉は福祉教育で始まり、福祉教育で終わるとの言葉どおり、学校にとどまらず、地域・家庭・施設にも目を向け、美咲町社協が実施する事業と連携しながら、地域のふれあいサロンや通いの場、小地域ケア会議、当事者の会などの場を活用し、社会福祉協議会や小地域ケア会議について、認知症やヤングケアラーとダブルケアについて等の福祉教育を実践しました。

(4) 福祉教育プログラムの作成

令和3年度に引き続き、美咲流(地域版・学校版)福祉教育プログラムを作成しました。令和3年度に作成した障がい分野のプログラムに引き続き、高齢者分野の作成を進めました。

※令和5年度以降、児童・認知症・ボランティア等を順次作成する予定

(5) 各種団体・大学等における福祉教育の実践

開 催 日 時	令和4年5月12日(木)10:00~12:00
場 所	旭町民センター
対 象	介護者の会6名(今回参加されなかった方には配布用資料準備)

内 容	介護者の会の皆さんは、日々の活動の中で介護に関する様々なことを学ばれたり、心のリフレッシュができる活動などをされています。今回は、ヤングケアラーとダブルケアについてお話させていただきました。子どもがケアを行ったり、1人で複数のケアを行う背景や地域でどのように支えていくかなどをお伝えしました。皆さんの介護やケアの経験についてもお伺いし、これまでの経験からヤングケアラーとダブルケアを行う人に寄り添う理解者となっていきたいことをお伝えしました。
-----	---

開 催 日 時	令和4年6月20日(月)12:40 ~14:10
場 所	美作大学講義室
対 象	社会福祉学科3年生 52名
講 師	松岡 博史 氏、松岡 はる恵 氏
内 容	松岡 博史 氏は、2011年3月劇症型肺炎球菌感染症を発症し、合併症により両手両足を切断、それに伴う様々な困難を御家族、御友人、医療、福祉、地域の方々との関わりで乗り越えてこられました。今回の講座では、松岡 博史 氏のお話から地域における福祉教育の必要性や障がい者支援の取組みについて紹介させていただきました。

開 催 日 時	令和5年1月18日(水)12:40 ~14:10
場 所	美作大学講義室
対 象	社会福祉学科2年生 51名
講 師	山本 修 氏、山本 千枝子 氏
内 容	聴覚障がいがある山本さんご夫婦は、手話で「こんにちは」「おはよう」などの挨拶や、学生一人ひとりの名前を指文字で丁寧に教えました。コロナ禍では、常に皆マスクをしているので、聴覚障がいの方は何を話しているのか分かりにくく、表情が分かるマスクを使う等、マスクを工夫することでコミュニケーションが取れることもお伝えしました。

開 催 日 時	令和5年2月12日(日)10:00 ~12:00
場 所	美咲町役場第二分庁舎
対 象	防災士ネットワーク 30名
講 師	山本 修 氏
内 容	美咲町内の防災士取得者等を対象に、今後、各地区で策定される個別避難計画に、中核的な人材として活躍が期待される防災士に、高齢者等が避難する際に必要となる知識や技術の習得を目的に研修会を実施され、第1回目となる研修会の講師として参加しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がいについての理解 ・手話等のコミュニケーションについて ・防災士からの質問

6. 子育て支援事業

地域のふれあいサロン活動と同様に子育て世代の居場所の活動や子育て支援事業は、従来の進め方では対応が難しい状況が続いています。新型コロナウイルス感染拡大の状況の中で、「みさきおやこひろば『ほっと・る一む』」の開催は今年度も見合わせとなりました。

現在美咲町には子育て世代の居場所は「ひよこクラブ」「わんわんクラブ」がありますが、そこには他のふれあいサロンと同様に『新型コロナウイルス感染症対策 ふれあいサロン開催の手引き』を配布するなど、情報発信に努めました。

その他子育て情報の発信の仕方については、「ほっと・るーむ運営委員会」をはじめ、他の事業や会議の際に子育て世代の意見の収集に努めており、今後の情報発信に活かしていきます。

7. 社会福祉大会の開催

美咲町社協の活動理念のもと、子どもから高齢者・障がい者等、誰もが生き活きと暮らすことができる共生の地域づくりに努め、社会福祉の向上にご尽力された方を顕彰し感謝の意を表すため、「第11回美咲町社会福祉大会」を開催しました。

日時:令和4年10月2日(日) 13:00~15:30

場所:旧打穴小学校体育館

式典:美咲町社会福祉協議会会長表彰他

講演:「地参・地笑の暮らしづくり」～地域共生社会の美咲町に向けて～

講師:美作大学社会福祉学科 特任教授 小坂田 稔 氏

エンディング:歌とダンス Akasaki & Kataoka

8. 共同募金事業の推進

美咲町共同募金委員会の行う共同募金への運動及び配分助成事業を計画に沿って行うなか、戸別募金の減少傾向に歯止めをかけ、募金活動を活性化するために、各種事業を展開しました。また、地域福祉の推進を目的とする共同募金に住民理解が得られるよう、募金手法や配分助成事業の公募・助成審査・決定に関する情報の開示、集められた募金の使途の明確化等、各種事業の機会を活用して住民と顔を合わせながら伝えるよう努めました。

(1)美咲町共同募金委員会運営委員会及び審査委員会

	開催日時	協議内容
監 査	令和4年 5月23日(月) 15:00~16:00	・令和3年度共同募金事業報告・決算、監査
交 付 式 運営委員会 (第1回)	6月2日(木) 13:00~13:30 15:10~16:30	・令和4年度赤い羽根共同募金助成交付式 交付団体:安井地区 ・令和3年度共同募金事業報告・決算、監査について
運営委員会 (第2回)	8月26日(金) 13:30~15:30	・令和4年度赤い羽根共同募金運動の推進について 赤い羽根共同募金運動の展開について 赤い羽根共同募金運動の事務処理について 美咲町共同募金助成公募(令和5年度分)について
運営委員会 (第3回)	11月9日(水) 15:10~16:10	・岡山県共同募金会美咲町共同募金委員会の副会長の互選について ・令和5年度美咲町共同募金委員会運営委員会の委員選任(案)について ・令和5年度美咲町共同募金委員会審査委員会の委員選任(案)について

審査委員会	令和5年 3月7日(火) 13:30~15:00	<ul style="list-style-type: none"> ・美咲町共同募金委員会審査委員長選任について ・令和5年度赤い羽根共同募金助成事業助成審査について
運営委員会 (第4回)	令和5年 3月14日(火) 15:10~16:10	(報告) <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度赤い羽根共同募金助成事業助成審査結果について (議案) <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度赤い羽根共同募金配分助成計画について ・令和5年度赤い羽根共同募金事業計画について

(2) 赤い羽根共同募金 募金運動について

10月1日から12月31日を運動期間として、各種募金運動を展開しました。

赤い羽根募金の実績

(目標額 2,370,000)

(単位:円)

募金種別	金額
戸別募金	1,533,700円
職域募金	257,050円
企業募金	565,373円
イベント募金	30,960円
その他の募金	277,183円
計	2,664,266円

歳末たすけあい募金の実績

(目標額 1,500,000)

(単位:円)

募金種別	金額
戸別募金	1,394,415円
その他の募金	153,700円
計	1,548,115円

※その他の募金とは、寄付つき商品の売上、歳末時期のイベント募金、手作り募金箱等で集まったお金です。

募金運動	主な募金方法、募金ボランティア
共同募金運動 (期間:10/1~12/31)	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別募金(常会長、連絡協力員による。世帯を対象) ・職域募金(職員を対象) ・企業募金(企業を対象) ・イベント募金(各種イベントによる) ・その他募金(募金箱、笑顔のお届け便、募金グッズ等)

募金にご協力いただきました企業さま(127企業)

森田商店	株式会社旭石油店	有限会社遠藤建設	三休商会
あいでんフジワラ店	島田理容	株式会社森脇興業	江与味製材株式会社
石井善二郎商店	大崎商店	アサヒ防災工事株式会社	旭木材株式会社
桃太郎商事株式会社	石原歯科医院	株式会社ナカツカ	有限会社丸美屋
本田事務所	有限会社美咲ファーム	有限会社イワサキスター	アトム美咲店
みさきのたね	おぎフォト	亀乃甲診療所	関医医院
にぎわい市場三金や亀甲店	オクテヤ運送株式会社	アルスヘアー	㈱タイラファイナンシャルパートナー
株式会社鈴鹿製材所	有限会社八田鉄工所	池上美容室	テクノス株式会社
美咲町物産センター	有限会社日神山内装	日本緑研株式会社	有限会社美絹糸院
株式会社美咲物産	サロン・ド・My	株式会社P I C	特定非営利活動法人やまさくらさくらの実
株式会社亀甲マイカーセンター	株式会社オーエスエー	有限会社三協緑産	中央アルミ工業株式会社
有限会社山一製作所	株式会社久米観光バス	村上オートセンター	有限会社坂手商店
ボーンズ株式会社岡山工場	有本観光バス株式会社	小島梨園	理容たいら
株式会社中央建設	有限会社内田石材店	有限会社有機商事	株式会社中央プチカントリークラブ
株式会社杉本建設	ザ・オークレットゴルフクラブ	農事組合法人アグリモモ人安味	株式会社ミツカ 美咲ブルーファーム寒竹
ハリキ精工株式会社岡山工場	ケアハウス百壽	株式会社マルケイ工業	山下ぶどう園
有限会社寒竹建設	株式会社タケチ 柵原工場	株式会社寒竹工務店	日本興業株式会社 柵原工場
有限会社アイミック	株式会社下山組	高山産業株式会社	株式会社ヒカリテック
株式会社野上石油店	柵原オートセンター株式会社	有限会社稲家石材	有限会社直原商会
田口医院	有限会社脳石油店	松尾設備工業株式会社	スーパーひとみ
K i t o B i t o	有限会社トラヤランドリー	有限会社鈴鹿モータース	有限会社山荘やなはら
石戸歯科医院	株式会社サ戸組	つぼや	株式会社大板合成有機化学研究所
DOWAエフテック株式会社	有限会社柴原石油店	株式会社デイスービスみさき	株式会社トンボ美咲工場
タナカ美容室	有限会社昭和堂	医療法人三恵会 柵原病院	有限会社万代土建
鳥越建具店	Hair Leaf	株式会社月の輪建設工業	卯根倉鋳業株式会社西部事業所
エコシステム山陽株式会社	有限会社壺阪自動車	有限会社梶尾建設	株式会社脳木工
菊井歯科医院	障がい者支援施設さやかなる苑	ツボテック工業株式会社	北和気郵便局
陽和工務株式会社 資源回収部	みどりホーム	株式会社シーモス	久米郡商工会
晴れの国岡山農業協同組合 中央支店	共和建設有限会社	有限会社ひろはた	日笠商事株式会社
株式会社津山医研	株式会社廣陽本社	株式会社エムズ	三要電熱工業株式会社
柴田電気管理事務所	株式会社第一食品岡山工場	有限会社創示社	株式会社アサンテ
株式会社 BEAGLE	株式会社ココロクメディアデザイン	株式会社三勝	

(3) 共同募金活動の充実

- ・手づくり募金箱大募集！！～わたしのまちの赤い羽根募金箱～
- ・赤い羽根ポスターコンクール

共同募金のしくみを見える化するため、子ども、障がい者施設・団体、高齢者施設、サロンなど幅広い世代へ手づくり募金箱作成の募集と赤い羽根ポスター作製の募集を行いました。10月から始まる共同募金運動では、公共施設や企業などに設置させていただき、共同募金運動を盛り上げていただきました。また、第11回美咲町社会福祉大会にて優秀作品を表彰しました。共同募金期間終了後もみんなのアート展示会～わたしの世界inみさき～にて町内巡回展示会を実施し、共同募金の周知に努めました。

(応募募金箱29点 手作り募金箱への募金額47,588円/応募ポスター9点)

募金箱の設置にご協力いただいた企業・公共施設のみなさま

ビューティーサロン・カゲヤマ、株式会社美咲物産（食堂かめっち・ミサキエアエル）、美咲警察署、JA晴れの国岡山（中央支店）、焼肉亀家、にぎわい市場三金や亀甲店、株式会社ナカツカ、美咲町物産センター、株式会社亀甲マイカーセンター、株式会社久米観光バス、亀甲駅、オクテヤ運送株式会社、有限会社三協緑産、久米郡商工会、有限会社日神山内装、ドライブイン寿、東伸金属工業株式会社 柵原工場、株式会社脳木工、北和気郵便局、JA晴れの国岡山（柵原支店）、ハリキ精工株式会社 岡山工場、農事組合法人アグリモモ人安味、エコシステム山陽株式会社、やさい畑、卯根倉鋳業株式会社 西部事業所、石戸歯科医院、Hair Leaf、アサヒ防災工事株式会社、みち停あさひ、役場本庁舎、旭総合支所、柵原総合支所、中央保健センター（順不同）

(4) 新たな募金グッズ制作及び募金実績向上につながる事業の展開

募金の使途や地域への還元のしくみをより幅広い世代へ周知し、また募金実績向上につながることを目的に、新たな募金グッズを制作し、寄付者の開拓に努めました。

〔共同募金グッズ〕

みしゃモンオリジナルトートバッグ/みしゃモンお守り(さくらの実とのコラボグッズ)

みしゃモンオリジナルボールペン/みしゃモンブロックメモ/みしゃモン不織布マスク(大人・子ども)/マスキングテープ/木製アニマルストラップ(木工ボランティア)/木製鉛筆立て(木工ボランティア) /ドライフラワー(ほっとスペースすみれ)など

(5) 支えあい活動の支援

住民が自発的に行う社会貢献活動を支援するため、ボランティア団体やNPO法人が行う福祉活動等に対し公募方式により助成を行いました。また、美咲町共同募金委員会の行う共同募金運動及び配分助成事業を計画に沿って実施しました。

(6) 災害見舞金と災害義援金への協力

美咲町内で、火災等で被災した住民に対し災害見舞金を支給しますが、今年度は0件でした。また、国内での自然災害等が発生した場合、岡山県共同募金会と連携のもと、義援金の募集等に努めました。

(美咲町共同募金委員会より見舞金0件/岡山県共同募金会より見舞金0件)

9. 社協会員の加入促進

美咲町社協の地域福祉事業活動の推進の財源として活用し充実に努めました。

普通会員			特別会員			ふるさと会員		
件数	金額	口数	件数	金額	口数	件数	金額	口数
314	416,000	416	58	246,000	82	1	3,000	1
合計 665,000								

(2) 生活支援体制整備事業

住み慣れた地域で生活を継続していくために、高齢者の日常生活における生活支援・介護予防について、多様なサービスの提供体制など基盤整備を構築するため、地域において支援ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、サービスを提供する事業主体と連携して、支援体制の充実・強化に努めました。

住み慣れた地域で生活を継続していくために、高齢者の日常生活における生活支援・介護予防について、多様なサービスの提供体制など基盤整備を構築するため、地域において支援ニーズとサービスのコーディネート機能を担い、サービスを提供する事業主体と連携して、支援体制の充実・強化に努めました。

1. 生活支援に関する情報収集と課題把握、多職種との連携

①小地域ケア会議をはじめとする地域包括ケアシステムを構築している会議への参加

(1)小地域ケア会議 地域福祉事業 P. 26参照

(2)地域ケア会議・地域包括ケア会議

地 域	中央地域	旭地域	加原地域
月 日	令和5年3月27日(月)	令和5年3月27日(月)	令和5年3月27日(月)
会 場	中央保健センター 大講義室	中央保健センター 大講義室	中央保健センター 大講義室
時 間	13:30~15:30	13:30~15:30	13:30~15:30
内 容	講義 テーマ「美咲町版地域包括ケアシステムについて」 美作大学生活科学部社会福祉学科 特任教授 小坂田 稔 氏 美咲町の3つのケア会議と地域の動き 質疑応答 グループワーク「地域ケア会議の改善した方がよいところ、見直した方がよいところ」 参加人数 32名		

地域包括ケア会議	令和4年度の開催はありませんでした。
----------	--------------------

以上の会議に参加もしくは参加した地域担当との情報共有を行い、地域にある生活ニーズの把握に努めました。

②ボランティアセンターとの連携と情報共有

美咲町内にある生活支援に関係する社会資源の情報収集と情報共有を行い、社会資源の見える化に向けて検討を行いました。

③各専門職や行政機関が連携を行う場への参加

(1)介護・医療連携協議会の部会への参加(毎月第2水曜日開催)

多職種・行政機関との連携を図るため介護・医療連携協議会の部会に参加し、各活動状況の報告を行った他、活動の中から見えてきた課題の共有・協議を行いました。※新型コロナウイルス感染症の拡大のため中止となった会もあります。

(2)地域ケア個別会議への参加(毎月開催に参加)要支援者に対する支援の検討、現在ある社会資源の活用方法の検討を行うため地域ケア個別会議に参加しました。

(3)地域課題共有会議への参加(7月10日に参加)

地域にある課題の解決に向け、地域みらい課が行う地域課題共有会議に参加しました。

(4)生活支援コーディネーター定例会への参加

普段からの情報共有に加え、定期的に事業の進捗状況や今後の計画を協議するための会議に参加しました。

④地域の中で行われる会議等への参加

地域の中での総会、防災会議等への参加や自治会長をはじめとした地域の役員の方と情報共有を行い情報収集に努めました。

2. 美咲町全体の生活支援体制整備のサービスの資源開発を推進

①配食サービスの普及、配食ボランティアの育成

(1)美咲町配食サービス事業の推進

さやかなる苑と協働して配食ボランティアの活動支援を行いました。その他、近隣市町で配食事業を行っている配食事業者と美咲町内での事業展開に向けての情報共有を行いました。

【さやかなる苑配食サービス実績】

配食ボランティア数	15名(サポーター及び、配食見守りボランティア登録者)
食数	1日5食まで(夕食のみ)
配食範囲	さやかなる苑より15分圏内(吉岡地区、藤原まで)
配食可能日	月曜～金曜日
自己負担(弁当料)	400円(配食利用者が負担、さやかなる苑が直接集金)
サポーターへの報酬	サポートふ・く・しのポイント制を利用 財源は町の配食事業を活用し1件あたり500円 100円はさやかなる苑の事務費、400円はポイントでサポーターへ美咲町社協から渡している。
実績数	618回

②通いの場立ち上げ支援・運営支援

<支援内容>

- ・地域・団体の状況に沿い、介護予防の取組みが行えるよう支援者と協議
- ・自主的な活動の立ち上げが行えるための相談支援
- ・通いの場の運営についての相談支援
- ・県や町からの注意喚起、感染症予防対策の啓発
- ・継続して開催を行っている場所に対する運営支援
- ・1～3ヵ月に1回程度巡回し、参加者の生活状況・ニーズ把握

地域	団体名	会場(地域)	開催曜日	備考
柵原	八神・塚角元気村	塚角コミュニティハウス	毎週火曜日	
	高下通いの場	高下公会堂	毎週水曜日	
	飯岡地区通いの場	晴れの国岡山農業協同組合 飯岡支店跡地	毎週金曜日	R3年度よりJAの鍵については、地域の方が使用できるようになった。
	さつき通いの場	久木コミュニティハウス	毎週金曜日	
	南和気通いの場	南和気コミュニティハウス	毎週木曜日	
	北和気健康の集い	北和気コミュニティハウス 羽仁公会堂	毎月第2・4月曜日 10:00～ 毎月第1・3火曜日 10:00～	介護予防交流活性化事業
	スポレク柵原	柵原総合支所	毎週水曜日 10:00～	介護予防交流活性化事業
中央	錦織通いの場	錦織ふれあい館	毎週月曜日 毎月第4木曜日	
	打穴上通いの場	打穴上集会	毎週火曜日	

		所		
	打穴通いの場	打穴西公会堂 普光寺	毎月第1金曜日 (ワンデイカフェ) 第2・4火曜日 (コロバン体操) 毎月第3火曜日 (写経)	
	打穴北通いの場	大谷コミュニティ 定国公会堂 秋政公会堂	毎週水曜日	
	大併和通いの場	大併和老人憩いの家/大併和ふれあいプラザ	毎週金曜日	
旭	栃原通いの場	揚名会館	毎週水・土曜日	
	上口通いの場	上口公民館	毎週水曜日	
	西川健やかクラブ	西川コミュニティセンター	毎週月曜日	
	みなみ通いの場	南公民館	毎週土曜日	令和4年度から再開
	併和元気ハツラツ通いの場協議会	併和コミュニティセンター	毎週水曜日	
	西併和通いの場	西併和公民館	毎週火曜日	令和2年度から開催なし
	江与味にこにこ会	江与味コミュニティセンター/友楽館	毎週月・金曜日	
	6時だよ全員集合	滝の畝公民館	毎週土曜日	

③ふれあいサロンの立ち上げ支援・運営支援

地域福祉事業 P. 27参照

3. ネットワークの構築(1層、2層協議体)

①1層(美咲町全体)協議体でのネットワークの構築

令和4年度の開催はありませんでした。

②2層協議体でのネットワークの構築

2層協議体のメンバー構成、開催方法等検討を行うため、先進地である総社市社会福祉協議会にて視察を行いました。その後、関係機関・企業と協議を重ね、3地域合同の生活支援サービス検討会(2層協議体)を開催しました。

『令和4年度 第1回美咲町生活支援サービス検討会(2層協議体)』

日 時:令和5年3月24日(金)13:00~15:00

会 場:美咲町林業センター 会議室

内 容:講演「美咲町における生活支援体制整備事業について」

発表者 美咲町社協 生活支援コーディネーター 影山 真太郎

実践事例発表「総社市における2層協議体について」

講師 総社市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 伊丹 和正 氏

コメンテーター 美作大学社会福祉学科 特任教授 小坂田 稔 氏

【グループワーク】

テーマ1「移動・買い物に関して課題だと思うこと」

テーマ2「今後、あったら良いなと思う取組みやサービスについて」

4. 住民へ支援のニーズと資源の見える化(広報)を図り、支えあいの雰囲気醸成

①社会資源マップ(ぎょーさんあるで!みさきのお宝じまん)の作成

地域の皆さんに町内のお宝(様々な取組みや情報)を知ってもらうために、社会資源マップを作成しました。

配布先:自治会長、居宅介護支援事業所、タクシー会社、行政、美咲町社協地区センターなど

②住民主体の福祉活動フォーラムや交流会フォーラムの開催を支援する。

新型コロナウイルス感染拡大により、フォーラムの開催が難しかったため、美咲町社協事業と連携し、【ちいきふくし活動新聞】にて各地域の福祉活動の紹介と他地域への啓発に努めました。

5. 研修会等への参加(コーディネーター1層・2層の資質向上や、情報交換等)

(1)『令和4年度 生活支援コーディネーター研修』

参加日時:令和4年5月30日(月)13:30~16:30

参加方法:オンライン(ZOOM)

内 容:1. 講演 テーマ「地域包括ケアシステムと生活支援体制整備事業
~基本理念・生活支援コーディネーターの役割~」

講師 中国四国厚生局健康福祉部 地域包括ケア推進官 岸 英二 氏

2. グループワーク テーマ「明日からの活動に活かしたいこと」
中国5県の生活支援コーディネーターや生活支援体制整備事業担当職員などによるグループワーク

(2)『美作県民局管内生活支援コーディネーター情報交換会』

参加日時:令和4年10月26日(水)9:45~12:00

参加方法:対面(津山東公民館 研修室)

内 容:美作管内市町村の生活支援コーディネーターが一堂に会し、生活支援体制整備事業の取組状況や日頃の活動についての情報や意見の交換を行った。

(3)『移動支援セミナー』

参加日時:令和5年1月24日(火)13:30~16:00

参加方法:オンライン(ZOOM)

内 容:1. 講演 テーマ「地域公共交通の活性化とも連携した住民互助による

移動支援サービスの普及方策に関する調査研究事業について」
 講師 株式会社富士通総研 行政経営グループ マネジングコンサルタント
 竹内 幹太郎 氏

2. 事例発表① テーマ『「訪問型サービスDの検討～現在の状況について』

講師 防府市高齢福祉課地域包括ケア係 主任 三輪 徹郎 氏

事例発表② テーマ『住民互助による移動支援サービスの検討から現在まで』

講師 光市三島地区 三島おたすけネット 第2層生活支援コーディネーター
 山本 光男 氏

6. サポートふくしについて

美咲町社協が、少子高齢化や核家族化・単身化が問題視される中、見守り・ちょっとしたお手伝いや相談を地域に関わるすべての人・団体の力を借り、またそれらの力を活かし、すべての地域住民が、お互いの支え合いのもと、安心して暮らせる地域づくりに努めました。

①生活支援サポーター数

登録者数	中央 119名	柵原 91名	旭 58名	計 268名
------	---------	--------	-------	--------

②活動回数

(1)契約訪問について

買い物付き添い〈1件3回〉生活支援(ごみ捨て・草取り等)〈3件151回〉

買い物支援〈1件2回〉

(2)サポートふくしのコーディネートについて

サポーターと利用者がうまく支援が展開できるように、必要に応じて、地域支援会議や個別会議などを行いました。また、新規・継続ともに生活支援サポーターが円滑に活動できるよう相談支援を行いました。

③サポーター会合の推進

地域で活動する生活支援サポーター同士が情報交換を行い、円滑に活動が行えるようにサポーター会合の推進に努めました。

打穴西地区		原田地区	
開催回数	4回	開催回数	3回
参加延人数	80人	参加延人数	15人
内 容	地区の活動状況について 気になる方の見守り情報交換	内 容	各地区の気になる方の見守り 情報交換

④生活支援サポーター養成講座及びフォローアップ講座の開催

近年、“生活支援サポーター養成講座を小地域単位で実施してほしい”という声が多く挙がって

いたため、自治会・旧小学校区を単位として、2地区で開催しました。総勢45名の方に参加していただき、この度、新しく33名の生活支援サポーターが誕生しました。

(1)開催日時・場所

【安井地区】

〈第1回目〉令和5年1月21日(土)9:00～12:00 安井公会堂

〈第2回目〉令和5年3月4日(土)13:00～16:00 北和気コミュニティセンター

【打穴上地区】

〈第1回目〉令和5年2月5日(日)13:00～16:00 打穴老人憩の家

〈第2回目〉令和5年2月26日(日)13:00～16:00 打穴老人憩の家

(2)内容

〈第1回目〉ひきこもりについて(講師:ノートルダム清心女子大学 准教授 中井 俊雄 氏)

認知症について(講師:美咲町地域包括支援センター、南劇団)

権利擁護について(講師:美咲町権利擁護センター、市民後見人)

サポートふくしについて(講師:美咲町社協)

〈第2回目〉傾聴について(講師:美作大学 教授 堀川 涼子 氏)

障がいの理解(講師:みしゃモンカレッジ長 松岡 博史 氏)

見守りについて(講師:美咲町社協)

【安井地区】

18名の方が受講されました。今回、新たに10名の生活支援サポーターが誕生しました。※18名の受講者のうち2名はすでにサポーターとして登録されており、今回スキルアップ講座として受講されました。

【打穴上地区】

打穴上12名、打穴里10名、打穴西3名、和田北、境、新城から各1名の総勢28名の方が受講されました。今回、新たに25名の生活支援サポーターが誕生しました。

※28名のうち3名の方は登録していただき、スキルアップ講座で受講されました。

(3)権利擁護事業・生活困窮者自立支援事業

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響で人と会ったり集まったりする機会が減少する中、問題を抱えている人とのつながりが切れぬよう意識しながら支援に努めました。

また、中核機関業務の受託が始まり、運営委員の方々から意見をいただきながら取り組みました。

従来の地域福祉事業に加え、美咲町地域包括支援センター事業、生活困窮者自立相談支援事業、生活困窮者家計改善支援事業との連携のなかで、あらゆる世代への総合相談に努めました。特に、障がいや病気のみならず、就労できない、他人との交流が苦手など生きづらさを抱えた世帯への支援を福祉、司法関係の機関や地域との連携のなかで検討することができるように努めました。

1. 美咲町権利擁護センター事業(受託事業)

①運営委員会開催

区分	第1回	第2回	第3回
日時	7月19日(火) 13:30～15:00	10月25日(火) 13:30～15:00	3月20日(火) 15:00～16:00

議案	議案第1号 令和3年度事業報告及び収支報告について	議案第1号 令和5年度美咲町権利擁護センター運営委員の選任について	議案第1号 令和5年度美咲町権利擁護センター事業計画について
	議案第2号 中核機関の運営について	議案第2号 令和5年度美咲町権利擁護センター支援検討委員の選任について	議案第2号 令和5年度美咲町権利擁護センター事業予算について

②支援検討委員会開催

区分	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
日時	5月24日 (火) 13:30～ 15:00	7月19日 (火) 15:00～ 16:00	9月16日 (火) 13:30～ 15:00	11月14日 (月) 13:30～ 15:00	1月18日 (水) 13:30～ 15:00	3月20日 (火) 13:30～ 14:30
検討ケース (後見制度に関するケース)	3件 (1件)	4件 (1件)	2件 (1件)	1件	1件 (1件) ※新規市民後見人の面接を行う。	1件 (1件)

③意思決定支援の適切な実施と地域住民と専門職との一体的な支援

本人の想いに寄り添い、意思に沿った支援が行えるよう関係機関と連携を図り支援を行いました。

【権利擁護センター支援実績】

分類	電話相談	来所相談	訪問	支援会議	同行支援
認知症等高齢者	167	66	85	7	13
知的障がい者等	296	63	48	4	10
精神障がい者等	60	14	34	4	4
その他・不明	113	46	66	4	0
合計	636	189	233	19	27

2.『けんりようご意見交換会～まあるくなあれ～』及び権利擁護講座の実施

市民後見人のフォローアップ・活動支援を目的に「けんりようご意見交換会」を開催しました。また、市民後見人・福祉関係者・地域住民を対象とした講座を実施し、権利擁護の啓発につなげました。

①『けんりようご意見交換会～まあるくなあれ～』の開催

市民後見人への活動支援を目的に、情報共有・相談ができる場を定期的に設けました。

【開催実績】

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
参加者数	9名	13名	12名	11名	／	11名	9名	／	／	10名	8名	10名

延べ参加人数:93名

②権利擁護講座の実施

『けんりようご意見交換会～まあるくなあれ～』及び生活支援サポーター養成講座にて以下の通り講座を開催しました。

講座名	開催日 (開催地区)	内容	講師	参加人数
けんりようご 意見交換会 ～まあるくなあれ～	6月14日(火)	対人援助技術 (講義編)	岡山パブリック法律事務所 社会福祉士 神崎 昌子 氏	12名
	9月27日(火)	対人援助技術 (実践編)	美作大学 生活科学部 教授 堀川 涼子 氏	11名
	10月11日(火)	中核機関について	岡山社会福祉士会 社会福祉士 今岡 清廣 氏	9名
	1月10日(火)	親族後見について	特定非営利活動法人 ゆずり 葉の会 副理事 石原 都 氏	10名
	2月14日(火)	介護保険について	美咲町地域包括支援センター 保健師 原 由佳 氏	8名
生活支援サポーター 養成講座	1月21日(土) (安井地区)	権利擁護について	美咲町権利擁護センター 市民後見人	17名
	2月5日(土) (打穴上地区)			24名

③中核機関についての勉強会の開催

中核機関の機能と役割について、担当職員及び行政関係職員の理解を深めるため勉強会を開催しました。

日時	会場	参加者	内容
7月4日(月) 9:30～11:30	美咲町林業 センター	41名	「中核機関について」 講師:岡山パブリック法律事務所 弁護士 高木 成和 氏 「中核機関の立ち上げについて ～中核機関立ち上げから軌道に乗るまで～」 講師:ノートルダム清心女子大学 准教授 中井 俊雄 氏

3. 権利擁護・成年後見制度の啓発・利用促進

権権利擁護制度の周知を目的として、社協だよりへの掲載、ふれあいサロンや小地域ケア会議等へ出向いて広報活動を行いました。

①社協だより・ホームページを活用しての啓発

社協だよりの「みしゃモン掲示板」や「みしゃモンクイズ」を活用し、権利擁護や成年後見制度に関する記事を掲載しました。

②ワンストップの相談支援機関としての窓口の周知

権利擁護や成年後見人制度の相談窓口としての周知を行い、支援や制度を必要としている方の相談を受け付けました。

4. 日常生活自立支援事業の促進

福祉サービスに関する情報提供、助言、手続きの援助、日常的金銭管理、書類等の預かりサービスを行い、自立した日常生活が送れるよう支援をしました。事業実施にあたり成年後見制度への移行や福祉サービス利用内容の変更等に対応するため、他機関との連携と生活支援員への報告・連絡体制の充実に努めました。

【利用状況】

(単位:人)

区 分	認知症等 高齢者	知的 障がい者等	精神 障がい者等	合 計	内生活保護受給者
昨年度末時点 契約者数	5	4	3	12	
令和4年度 新規契約者	1			1	
※解 約	1			1	
合計利用者	5	4	3	12	1

生活支援員 登録者数 6人

5. 法人後見事業(5件)

支援検討委員会において、美咲町社協の受任がふさわしいケースと認められ、家庭裁判所から審判を受けたケースについて、美咲町社協にて本人の意思に沿った生活を送れるように支援を行っています。

【法人後見受任状況】

区 分	後 見	補 佐	補 助	合 計	備 考
昨年度末時点での利 用者数	3		2	5	
令和4年度 新規利用者	1			1	内
終了	1			1	
合計利用者	3		2	5	

・以前から日常生活自立支援事業で関りのあった70代男性について、認知症の進行とともに同事業での関りが難しくなってきたため、親族に相談を行い成年後見制度への移行を支援しました。支援検討委員会にて検討・受任調整を行い、引き続き美咲町社協での後見が適切であるとのアドバイスをいただきました。家庭裁判所より1/25に後見での審判があり支援を行っています。

・令和3年より後見人を務めていた80代の女性について、昨年9月に亡くなられたため、支援検討委員や各機関・地域の方々へ相談を行いながら取り組みました。親族とは、生前より疎遠になっており、葬儀・埋葬など本人の意思に沿った死後事務が行えるよう取り組みました。

6. 金銭管理・財産保全サービス(1件)

判断能力に関わらず、金銭管理及び書類等の保管を適切に行うことが困難であると認められるものと契約し、当事者が自ら行えるように支援を行いました。

7. ふくしの相談会の実施

県北の権利擁護のネットワークの連携を強化することを目的に、津山市・鏡野町・久米南町と美咲町の4つの社会福祉協議会が共同で開催し、より身近な専門職による相談の機会の提供とワンストップの相談支援に努めました。

【ふくしの相談会開催状況】

区分	ふくしの相談会 inつやま(第21回)	ふくしの相談会 inかがみの(第22回)	ふくしの相談会 inかがみの(第23回)
日時	5月26日(木) 13:30~15:30	10月20日(木) 13:30~15:30	1月27日(金) 13:30~15:30
会場	津山市総合福祉会館	鏡野町中央公民館	美咲町 中央保健センター
相談件数	4件 (内美咲町分 0件)	5件 (内美咲町分 1件)	5件 (内美咲町分 2件)
相談員等スタッフ	21名	19名	12名

8. 心配ごと相談事業

心配ごと相談・行政相談・人権相談等の合同相談所を開設し生活支援に取り組みました。

【相談会実績】

地区	開催回数	相談件数	相談場所
中央	6回	26件	中央保健センター
柵原	4回	27件	柵原総合文化センター
旭	5回	13件	旭町民センター

9. 生活困窮者等支援事業の実施状況

生活に困窮している方やひきこもり状態の方、コロナ禍で失業・減収してしまった方等に対して、本人に寄り添いながら課題を整理し、フォーマル・インフォーマルの支援ネットワークを構築して自立促進を図るよう努めました。また、就職につながった後のアフターフォローや一時的な食料支援、リサイクル家電の提供等、幅広い生活ニーズに対応できるように取り組みました。

①生活困窮者自立相談支援事業(受託)

【年間相談件数】

新規相談	電話相談	来所相談	訪問 (同行支援含む)	支援会議	他機関との 連絡調整	プラン (評価含む)
13件(世帯)	355件	96件	204件	12件	195件	3件

※プランの内、自立相談支援事業による就労支援非対象 1件
継続的な見守り 1件
家計改善支援事業 2件
評価(継続支援及び終結) 2件

②ぷらっとほーむみさき事業

引きこもりや障がいなど、さまざまな要因で社会とのつながりが薄れ、生きづらさを抱えた人が社会に順応していくためには、まずは自分のペースで家の外に出ることから始める必要があります。

コロナ禍で活動するのに厳しい状況ではありましたが、地域住民と連携し、就労に向けての意識づくりをはじめ、就職までの支援に努めました。さらに自立した生活を送るためには、生活環境を整える必要もあり、地域住民の協力を得て、依頼者宅の清掃等住環境の整備も行いました。

【実施状況】

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施回数	1	0	0	0	0	0	1	0	3	0	3	1	9回
参加人数	1	0	0	0	0	0	1	0	3	1	3	2	11名

内容:作業所の見学、草刈、地域(個人宅)での清掃、履歴書作成、面接練習等

③食料支援及びリサイクル事業の取組み

赤い羽根共同募金事業の「あったか心バンク」と連携し、地域の方々の支え合う気持ちをつなげることができるよう、生活に困窮している方を対象に地域の方から寄付していただいた、お米・生活用品・家電製品等の無償提供を行い、自立した生活が送れるように支援しました。

(地域福祉事業 P.32参照)

④赤い羽根 小規模な家屋修繕等の環境整備事業

障がいのある方や生活保護に至る前の状態である生活困窮者の方等、生活に余裕がない世帯に対して、家屋修繕の材料費の一部を負担することで生活環境を整え、住み慣れた自宅で安心して生活できるように支援しました。修繕には、岡山県建設労働組合の方にご協力いただき、毎年行われている奉仕活動に併せて実施していただきました。

○利用件数…高齢者のみ世帯 1件

○修繕内容…屋根の修繕

10. 生活福祉資金貸付事業(県社協の事業)の状況

低所得者・障がい者・高齢者等の生活困窮の世帯に対し、生活福祉資金の貸付・償還等の必要な援助指導を行うことを通して、その自立を支援することに努めました。また、特例貸付制度利用者については、窓口として受付を行ったのみでその後の関りを持ちにくいという課題があります。そのため、今後の関りを持つきっかけづくりとして「あったか心バンク」と連携し、12月に貸付制度利用者に周知し、希望者に対して食料配布を行っています。

①貸付利用延べ件数(令和5年3月末現在)

新規貸付	償還済	利用件数
0件	0件	11件

②特例貸付利用延べ件数(令和5年3月末現在)

緊急小口資金	総合支援資金 (初回)	総合支援資金 (延長)	総合支援資金 (再貸付)
69件	46件	22件	32件

11. 福祉資金貸付事業(美咲町社協実施制度)の状況

生活困窮者を対象に一時的な貸付を行う場合に、生活費等の貸付を行うとともに、生活相談や日常生活援助指導を行いました。また、滞納者には償還指導に努めました。

①貸付・償還状況

新規貸付	償還済	利用件数(3月末現在)
2件	1件	7件

※本人死亡のため、今年度で徴収不能処理対応したケースが1件あり。

(3月の理事会において決算処理承認済み・来年度から抹消)

②償還指導状況

送付月	送付件数	備考
8月	6件	※督促状送付対象者3名 ※残高確認書送付対象者3名 訪問または、郵送にて通知及び償還指導を行う。
2月	5件	※督促状送付対象者3名 ※残高確認書送付対象者1名 訪問または、郵送にて通知及び償還指導を行う。

(4) その他福祉事業の推進

①福祉団体活動支援事業

町の補助により、福祉団体の自主的運営に対して助成を行い、自主活動の支援を行いました。

支援団体:4団体

(美咲町身体障害者福祉協会・美咲町遺族会・美咲町保護司会・美咲町更生保護女性会)

②広報活動の促進

広報紙「社協だより」を毎月発行し、美咲町社協が実施する福祉事業について周知を図るとともに、福祉活動や福祉情報等を提供してきました。また、ホームページ・フェイスブックを活用して情報をタイムリーに幅広く発信していくことにも努めてきました。

◎職員体制

・地域福祉職員

社会福祉士 8名

Ⅲ. 包括的支援事業

地域包括支援センターは、社会福祉協議会が業務委託を受け運営しています。

地域包括支援センターの主な業務として、包括的支援事業(第1号介護予防支援事業、総合相談支援事業、権利擁護事業、包括的・継続的ケアマネジメント支援事業)及び指定介護予防支援事業を実施しました。

また、地域包括ケアシステムを構築するためには、医療と介護の連携は重要であり、医師会及び行政、社会福祉協議会、関係機関と連携しながら、医療・介護・生活支援等の体制づくり及び施策・事業の展開に努めました。

1. 包括的支援事業

(1) 第1号介護予防支援事業(介護予防ケアマネジメント事業)

- ①-I 介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防ケアマネジメント(第1号介護予防支援事業)は、介護認定要支援者及び基本チェックリストの記入内容が事業対象の基準に該当した方を対象としています。事業目的は、介護予防及び自立支援です。認定結果や相談に応じて、訪問や面接を通じて状態や生活環境を把握し、本人や家族の希望に応じ、必要な支援に努めました。
- ①-II 要支援1、2の認定を受けてサービス利用のない人に対して訪問をして生活の実態把握を行い、介護予防及び福祉サービス等が必要と認められる場合は、その支援につながるように努めました。要支援1では、91.7%、要支援2では82.6%の把握ができています。把握できないケースは、入院等で不在のケースでした。

区分	認定者数	支援プランなし	実態把握の訪問	訪問率
要支援1	35	12	11	91.7%
要支援2	88	23	19	82.6%

訪問以外では、美咲町社協が支援している小地域ケア会議に出席しました。

小地域ケア会議では、地域の中で気になる高齢者の情報が住民より集まり、その情報をもとに地域包括支援センターとして実態把握を行い、住民の支援につなぐことができます。また、実態把握及び支援の際には、民生委員児童委員と連携を行うことも増えています。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小地域ケア会議出席回数	64回	124回	154回

- ①-III 要介護状態になることを予防するため、特に困難事例については、地域ケア個別会議等で多職種から助言をいただくことで、介護予防ケアプランを作成するうえで、介護予防事業及び社会資源等(通いの場など)の適切なサービスが包括的・効率的に実施されるよう支援に努めました。また、会議での助言をもとに、再度アセスメントを行い、サービス事業所や介護予防教室のスタッフと連携して支援を行いました。令和4年度の事例検討件数は18件でした。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
地域ケア個別会議出席回数	8回	5回	10回

- ① -Ⅳ 短期集中介護予防で教室では、専門職により、健康チェック、筋力の向上を目的とした体操、事業前後のアセスメント評価等を行うことで身体機能向上を目的として事業実施をしています。教室の参加者は、介護保険要支援認定者及び生活機能チェックリストの対象者を訪問し、参加を促しています。令和4年度生活機能チェックリストの実施者は18名、そのうち、事業対象者としての参加者は5名です。

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
短期集中 介護予防教室	4クール 15人	4クール 12人	4クール 13人
フォロー教室	5人	9人	5人

- ① -Ⅴ 通いの場での介護予防取組み状況については、令和4年度は、通いの場に通うことで運動機能等の向上や生活状況の改善に通いの場がつながっているかを評価しています(令和4年度は、通いの場で2か所実施)

また、通いの場を通じて集団の健康教育として、介護予防の講話(口腔など)や認知症予防の講話を行っています。(令和4年度は、通いの場3か所、サロン4か所実施)通いの場では、体力チェックの実施を行うことで、転倒リスクの確認を本人と行い、介護予防の支援が必要な人には訪問を実施することができています。また、口腔ケアの講話により、参加者自身が「口の状態やケアの見直しができた」「歯科受診していなかったのが歯科受診しようと思う。」という声が聞かれ、口腔に対する意識の向上がみられます。また、認知症の講話については、「認知症予防の取組みをしていきたい。」「認知症の人に寄り添う声かけをしていきたい。」などの声が聞かれ、認知症予防や対応について学ぶきっかけになっていると感じています。

(2) 総合相談支援事業

高齢者やその家族の介護の悩みや福祉、健康、介護予防等の困りごとに対して、よりよい解決ができるように、電話や訪問等により相談に応じ、包括支援センターの専門職(主任介護支援専門員・保健師・社会福祉士等)が連携しながら、総合的な支援に努めました。

(令和4年度相談件数)

区分	相談内容	令和2年	令和3年	令和4年
1	介護相談	662	810	312
2	福祉相談(介護相談を除く障がい、生活困窮等)	100	117	53
3	介護予防	17	143	19
4	認知症	295	201	122
5	健康医療	326	333	315
6	虐待、権利擁護	186	331	104
7	その他	113	148	157
8	高齢者以外(再掲)母子、障がいのある人	7	53	45

- ② -Ⅰ 電話で相談があった場合は、電話相談のみではなく、積極的に訪問等の手段で実態把握に努めました。また、関係機関から情報収集を行い、状況把握に努めています。支援が必要なケースに、早期に対応できるよう努めました。
- ② -Ⅱ 高齢者のみならず、家族に問題を抱えた世帯全体に関わりの必要なケースについては地域包括支援センターのみで関わることなく、行政及び関係機関等と連携し、ケース会議をもちながら役割を決め支援を行っています。

(3) 権利擁護事業

地域住民、民生委員児童委員、介護支援専門員等の支援だけでは十分に問題が解決できない困難な状況にある高齢者が、生活を維持し安心して生活することができるよう、行政、権利擁護センター及び関係機関等と連携し、高齢者の権利擁護に必要な支援に努めました。

③- I 高齢者虐待の防止及び対応

高齢者虐待の予防と早期発見・早期対応・再発防止を図るため、役場保険年金課、福祉事務所、権利擁護センター及び関係機関等と連携し取り組みました。

令和4年度の虐待通告(新規)については、介護支援専門員、行政から受けることが多く、虐待に関する意識が高まり、早期の通報ができています。また、警察から直接通告を受けるケースもありました。養護者(虐待者)は、子どもが多く、令和4年度では、75%を占めています。虐待通告後は、速やかに現状把握を行い、コア会議の開催に努め、虐待有無や緊急性の判断、各関係者の支援の役割分担を行い、対応が速やかにできるように努めました。令和4年度は、一時保護したケースは2件となっています。また、専門的な助言が必要なケースについては、契約弁護士や権利擁護センター等に相談・連携しながら対応しました。

高齢者虐待防止研修会については、介護支援専門員や介護職員、行政職員を対象に実施し、31名の参加がありました。研修後のアンケートでは、87%が「参加してよかった」と答えており、虐待の視点の学び、支援・連携体制の構築の必要性の重要性を感じており、学びの多い研修が開催できたと感じています。

(虐待相談通告件数)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
虐待相談通告件数	14	13	11
虐待分類			
① 身体的虐待	8	10	9
② 介護・世話の放棄、放任	0	0	0
③ 心理的虐待	5	2	1
④ 経済的虐待	2	1	1
⑤ 性的虐待	0	0	0

* 重複あり

(相談者、通報者)

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
介護保険支援専門員	5	3	3
介護保険サービス事業者等	0	2	0
権利擁護支援センター 地域包括支援センター	4	1	1
警察	2	1	1
行政	2	2	3
民生委員	0	0	0
医療機関	0	0	0
本人	0	0	1
家族・親族	3	3	1
その他	2	1	1

*重複あり

(養護者(虐待者)について)

高齢者との続柄	令和2年度	令和3年度	令和4年度
配偶者	1	2	1
息子	7	5	7
娘	3	3	2
婿	1	1	0
嫁	1	0	0
孫	0	1	1
兄	1	1	0
本人(セルフネグレクト)	0	1	1

*重複あり

③ -II 成年後見制度の活用促進

成年後見制度利用等の相談を受けた場合、権利擁護センター及び福祉事務所等の関係機関と連携しながら支援に努めました。

また、成年後見制度を幅広く周知させるため、関係機関とともに広報啓発を図りました。

③ -III 権利擁護業務アドバイザー会議の開催

今年度からは美咲町社協が行う支援検討委員会の中で協議を行いました。

地域包括支援センターとして、困難事例検討の協議に提出した案件は、6件でした。岡山パブリック法律事務所の高木弁護士をはじめ、様々な立場のアドバイザーからの助言をもとに、困難事例の解決に向けた支援や高齢者虐待事例の対応について検討しました。

③-IV 老人福祉施設への措置支援

緊急に虐待の理由で役場保険年金課、福祉事務所と協議のうえ、老人福祉法上の措置が必要と判断したケースもありました。高齢者虐待重症化の現状が見えます。その背景には、認知症の介護問題や現在に至るまでの親子関係、虐待養護者の発達問題等、様々な要因が絡んでいました。

③-V 消費者被害防止

令和4年度は、初めて、生涯学習講座参加者を対象に消費者被害に関する情報の周知を実施しました。対象者は高齢者であり、消費者被害の手口をわかりやすく伝えるために、講義や寸劇を通じて伝えました。

開催日	令和4年11月15日(火)
参加者	美咲町生涯学習講座参加者 7名
開催場所	柵原総合文化センター
テーマ	「消費者被害の手口を知り、消費者被害・特殊詐欺を未然に防ぐための予防や対応について学ぶ」
講師	美咲町地域包括支援センター・美咲町社協地域福祉課

(4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

地域の高齢者が住みなれた地域で安心して生活することができるよう、介護支援専門員の連携及び多種職や関係機関と連携を図り、個々の高齢者の状況や変化に応じた包括的・継続的ケアマネジメントを実現するため、介護支援専門員の後方的支援に努めました。

④ - I 日常的な個別指導・相談

日常的業務に対し、主任介護支援専門員が介護支援専門員に対して、面接や電話などで相談を受けながら指導と支援に努めました。小地域ケア会議での地域の情報を介護支援専門員に伝え、再度支援の検討を行うために地域住民を含めた地域での個別会議へと展開し、住民がより地域の中で生活しやすい状況への支援を進めました。

年 度	介護支援専門員からの相談件数	個別ケア会議の開催回数
令和4年度	60件	4回

④ - II 事例検討会の実施

介護支援専門員から支援困難事例を提示し、美作大学 堀川涼子教授からアドバイスをいただきました。1回目では、相談技術の意義について、講義を受けることで基本的な技術を学ぶことができました。2, 3回目では、介護支援専門員が事例を提供し、事例を通して、疾患の理解、アセスメント力をさらに深め、問題解決のための視点を養い、気づきを持ち、支援の組立てを学ぶことにより、介護支援専門員の資質向上及び相談援助技術向上に努めました。

開催日	令和4年6月22日(水)	令和4年9月15日(水)	令和5年2月21日(水)
内 容	介護支援専門員が担当している困難事例の検討を実施し、支援の在り方の検討を行う。		
参加者	美咲町の要支援・要介護者を担当している介護支援専門員等 美咲町内のケースを担当する町外の介護支援専門員 美咲町保険年金課、社会福祉協議会地域福祉課職員、美咲町地域包括支援センター職員		
参加人数	35名	20名	23名

④-III 介護支援専門員等研修会の実施

親族のいない独居高齢者、認知症高齢者、子供など親族がいても関係が良好でなく支援拒否や身元引受の拒否があるケースが目立ってきています。

本人にとって不利益な結果を招くことがないように、適切な制度の理解を行い、相談をすることができるように、様々な制度を正しく理解し、活用することができる研修会を開催しました。

開催日	令和4年12月12日(金)
内容	「権利擁護に関する諸制度・介護支援専門員に求められる役割を学ぼう」
参加者	美咲町内の介護支援専門員、晴ればれサポートテラス
参加人数	28名

④-IV 美咲町介護給付適正化事業

保険年金課の担当職員と合同で、研修会を計画・実施しました。

開催日	令和5年3月17日(金)
内容	「効果的・効率的なケアマネジメントプロセスのために ～美咲町のケアプラン点検を振り返って～
講師	NPO 法人 岡山県介護支援専門員協会 会長 堀部 徹 氏
参加者	町内の利用者を担当している介護支援専門員等

④-V介護給付適正化研修会参加

開催日	令和4年11月29日(火)
開催場所	津山保健センターホール
参加者	1名

総合相談件数及び主な事業、会議、研修実績一覧

(令和5年3月末現在)

主な事業・会議等		回数等
地域包括支援センター運営協議会 委員:公益代表、介護サービス事業者代表、学識経験者、権利擁護事業関係、 被保険者代表 ※事業計画・報告及び予算・決算等について協議		0回
総合相談支援事業(延べ対応件数) ・介護相談 312件 ・福祉相談(介護相談除く 障がい、生活困窮等) 53件 ・介護予防 19件 ・認知症 122件 ・健康医療 315件 ・虐待、権利擁護 104件 ・その他 157件		1,082件
虐待・権利擁護対応内訳(延べ対応件数) ・成年後見制度の活用促進 2件 ・日常生活自立支援事業利用の支援 2件 ・高齢者虐待の相談及び対応(電話対応等含む) 85件 (老人福祉施設等措置の支援) 5件 (契約入所移行等の支援) 19件 (介護支援専門員等への支援、その他の支援) 7件 ・消費者被害防止対応 1件		121件
高齢者虐待コアメンバー会議 ケース会議(開催実数) 支援検討委員会(権利擁護) (延べ件数) 高齢者虐待防止研修会 消費者被害防止研修会		17回 25回 6回 6件 1回 1回
地域包括ケア会議 地域ケア会議(中央・旭・柵原地域ケア会議意見交換会 3地区合同×1回) 小地域ケア会議(延べ参加回数)		0回 1回 119回
包括的・継続的マネジメント事業 介護支援専門員に対する個別支援(延べ件数) 介護支援専門員事例検討会 堀川 氏 介護支援員等事例検討会 介護支援専門員研修会 美咲町介護給付適正化事業 堀部 氏		60回 3回 1回 1回 1回
実態把握訪問		121件

2. 事業・会議等

(1) 地域包括支援センター運営協議会の開催

地域包括支援センター運営協議会は未実施でした。地域包括支援センターの運営における事業の実施状況や事業計画等について、協議会メンバーが一同に会し、それぞれの活動の枠を超えて地域の課題を共有し、解決に向けた話し合いや連絡調整、連携・協力が行われる場となることで、地域の課題解決を推進する役割を担っているため、運営協議会の開催は必要と考えます。

(2) 在宅医療・介護連携事業の推進（行政主体）

在宅医療・介護連携協議会については未実施でした。地域包括ケアシステムの構築のためには、医療と介護の連携は重要であり、行政及び関係機関と連携し、在宅医療・介護連携推進協議会で施策及び事業を推進する必要があります。

協議事項について必要な検討を行うため、医療関係者及び行政関係課・地域包括支援センター・関係機関等で部会を設置し、医療介護連携、認知症対策、生活支援体制等について協議・検討を行いました。

次の項目を重点目標として推進しました。

- i 地域の医療・介護資源の把握
- ii 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討
- iii 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進
- iv 医療・介護関係者の情報共有の支援
- v 在宅医療・介護連携に関する相談支援
- vi 医療・介護関係者の研修
- vii 地域住民への普及啓発
- viii 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

【在宅医療・介護連携部会の内容及び参加者数】

月 日	部会内容	地域包括支援センター参加者数
令和4年5月	① コロナ感染症の実状 ② 岡山県コロナ対策室からの調査結果について ③ 年間スケジュール	2人
6月	① 業務継続計画(BCP)について ② 地域ケア会議議題について	3人
7月	① コロナ感染症の現状 ② 業務継続計画(BCP)策定について ③ 地域ケア会議議題について	4人
9月	コロナ禍での在宅生活の問題点について	1人
10月	① 施設におけるコロナ感染の拡大を防ぐために ④ 地域における困難事例の支援状況について	3人

11月	① 地域における困難事例の支援者向け研修と地域ケア会議について ② みまさか認知症倫理研修会の報告	2人
12月	オレンジカフェの現状と課題	3人
1月	オレンジカフェの課題整理後の活動報告	2人
2月	令和4年度事業評価及び令和5年度計画について	2人
3月	① 3月13日からのマスクの着用について ② 町内高齢者施設の感染対策の動向について	2人

(3) 地域ケア会議等の充実

③-I 地域ケア会議(事前準備としての意見交換会)の開催

日常生活圏域(中学校区)で、自治会長、民生委員・児童委員、小地域ケア会議の構成員、介護保険事業所職員、行政職員等から構成し、地域課題等について協議してきました。令和4年度は、地域ケア会議の事前準備として3地域(旭、中央、柵原)合同で意見交換会として実施しました。

第1回地域ケア会議

地域	地域ケア会議 意見交換会
月日	令和5年3月27日(月)
会場	中央保健センター
時間	13:30~15:30
内容	①講義「美咲町版地域包括ケアシステムについて」 美作大学生生活学部社会福祉学科 特任教授 小坂田 稔 氏 ②美咲町の3つのケア会議と地域の動き ③グループワーク「地域ケア会議の改善した方がよいところ、見直した方がよいところ」

③-II 地域ケア個別会議の開催

介護認定要支援者及び事業対象者の自立支援に資する計画となるよう包括支援センター職員が作成する個別ケースのアセスメントシートとサービス計画を提示し、多職種(医師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士等)による専門的視点から、支援目標及び福祉サービス・社会資源等について検討を行いました。

③-III 小地域ケア会議への参加

社会福祉協議会が開催支援する小地域ケア会議(81自治会の内、60自治会)に参加し、地域課題及び個別課題の支援等について、情報共有及び検討を行いました。

小地域ケア会議で把握した個別課題等については地域ケア会議へと展開し、その支援方法等について情報共有・検討を行いました。

(4) 地域包括ケア会議(行政主体)への参画

令和4年度は、地域包括ケア会議は未開催でした。

住み慣れた地域で自立した生活を最期まで送ることができるように、高齢者・障がい者・子ども等、全ての世代で支え・支えられるまちづくりが求められており、介護・育児・障がい・生活困窮などに対応した包括的な生活支援を切れ目なく提供できる体制(地域包括ケアシステム)づくりを推進するた

め、行政及び地域包括支援センター、社会福祉協議会、関係機関とともに地域課題及び展開している事業等について共有・協議する必要性があります。

(5) 認知症総合支援事業（行政主体）

認知症の人や家族が安心して暮らせる優しいまちづくりを目指し、認知症の状態に応じた適切な医療や介護サービスが提供される仕組みづくり及び認知症の人や家族に対する総合的な支援に努めました。

⑤-I 認知症事業連絡会への参画

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、行政及び関係機関、団体等と連携するとともに、認知症事業についての情報共有及び検討を行い、認知症に関わる事業や啓発活動を推進しました。（年3回開催）

⑤-II 認知症啓発活動の推進支援

認知症について正しい知識を持ち、認知症の人の視点に立って認知症への理解を深めることを目的に、啓発活動に取り組みました。

また、地域住民一人ひとりが地域で何ができるかを考え、できることから行動に移すきっかけづくりを推進しました。

○9月アルツハイマー月間に合わせて啓発活動

認知症啓発のチラシを作成し、全戸配布を行いました。また、併せて認知症川柳の募集も行いました。

⑤-III 認知症カフェ(オレンジカフェ)の推進支援

認知症の人やその家族・地域住民・専門職等、誰もが住み慣れた地域でいつまでもその人らしい生活ができるように、仲間づくりや生きがい支援、介護する家族の負担軽減、認知症や介護の相談支援の場として、オレンジカフェの設置運営支援に努めました。

令和4年度より、美咲町活動拠点である「ミサキアエル」で開催しました。

開催回数	参加者数(延べ)	スタッフ参加者数
21回	118名	81名

⑤-IV 認知症サポーター養成講座の開催

認知症地域支援推進員等による地域支援体制の構築とともに、キャラバンメイト(認知症サポーター養成講座講師)が地域や圏域・職域等において、地域住民に認知症の正しい理解を広めるため、認知症サポーター養成講座を開催しました。

開催日	団体等	受講者数
令和4年 6月14日	畝宮山サロン	8人
令和4年 8月30日	美咲町社協職員	23人
令和4年11月28日	美咲中央小学校(4年生)	13人
令和4年12月 6日	藤原地区コロバン体操	18人
令和5年 1月14日	栃原地区小地域ケア会議	17人

令和5年 1月21日	安井地区生活支援サポーター養成講座	15人
令和5年 2月 5日	打穴地区生活支援サポーター養成講座	24人
令和5年 2月24日	旭小学校(4年生)	6人
令和5年 2月27日	大埴和東サロン	15人

⑤-V 認知症初期集中支援チームによる支援

認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、認知症の人やその家族へ早期診断・早期対応、日常生活上の助言等の支援に努めました。

(6) みまさか認知症疾患医療センター・認知症疾患医療連絡協議会への参加

医療と介護を中心とした臨床倫理的課題の克服を目指し、尊厳や人権を重視した支援が行えるよう、みまさか認知症疾患医療センター(積善病院)が開催する連絡協議会及び研修会等に参加し、相談支援の質の向上を図りました。

⑥-I 認知症臨床倫理研究会 (6月、10月、2月 年3回 参加)

⑥-II 認知症ケア推進会議 (年1回 参加)

⑥-III 定例研修会 (年5回 参加)

3. 指定介護予防支援事業

介護保険における予防給付の対象となる要支援者及び事業対象者が、介護予防サービス等の適切な利用を行うことができるよう、その心身の状況と置かれている環境等を勘案し、介護予防サービス計画を作成するとともに、当計画に基づく指定介護予防サービス等の提供が確保されるよう、介護予防サービス事業者等の関係機関と連絡調整を行いました。

サービス計画を作成する際、困難と思える事例については、多職種で構成する地域ケア個別会議でアドバイスを受ける等、適切なサービス計画を作成するよう努めました。

① 介護予防支援サービス計画作成実績

①-I 介護予防支援サービス計画作成実績(前年度実績件数)

(単位:件数)

審査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	111(113)	113(114)	113(115)	117(115)	115(106)	116(113)
(委託)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)
審査月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	115(115)	117(115)	106(105)	116(103)	122(103)	118(109)
(委託)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)

①-II 介護予防支援サービス相談支援 (前年度実績件数)

(単位:件数)

	実績
訪問・面接	1,636(1,663)件
電話	662(1,002)件
サービス担当者会議	168(165)件

◎職員体制

行政から1名派遣、社会福祉協議会の専門職等の7名で業務を行いました。

- ・センター長 1名
- ・保健師 1名(行政職員)
- ・社会福祉士 1名
- ・主任介護支援専門員 1名
- ・介護支援専門員等 3名

IV. 介護保険事業

美咲町で暮らす誰もが、安心して暮らし続けることができるよう、通所介護・訪問介護・居宅介護事業・地域密着型特別養護老人ホーム事業の運営に積極的に取り組みました。

1. 通所介護事業(デイサービス事業)

日常生活に支援が必要な人、要介護状態にある人が、できる限り住み慣れた地域・我が家において、安心して日常生活を過ごすことができるよう、介護保険法による通所介護事業を積極的に取り組みました。また、利用者の心身の状況に応じた通所介護計画書を作成し、多職種との連携を図り、利用者支援に努めました。

(事業実施事業所)

(1) 美咲町中央ふれあいセンター

① 事業実施の概要

- ・利用定員 40人
- ・営業日 月曜日～土曜日(12月29日～1月3日を除く。)
- ・営業時間 午前9時～午後5時
- ・職員体制 常勤職員5名、非常勤職員12名

管理者1名(兼務)、生活相談員3名(兼務3名)、看護職員2名(兼務2名)、機能訓練指導員2名(兼務2名)、介護職員12名(兼務5名)、介護助手1名、調理員3名(兼務2名)、運転職員1名

② 事業実施状況

i) 介護保険事業

次のとおり、介護保険による事業を実施しました。 ※稼働率 89.3%

年月	営業日	利用者 数合計	現行相当	要介護 I～II	要介護 III～IV	1日 平均
R4. 4	26日	984人	77人(7.8%)	691人(70.2%)	216人(22.0%)	37.8人
R4. 5	26日	996人	75人(7.5%)	705人(70.8%)	216人(21.7%)	38.3人
R4. 6	26日	983人	73人(7.4%)	675人(68.7%)	235人(23.9%)	37.8人
R4. 7	26日	1,001人	78人(7.8%)	687人(68.6%)	236人(23.6%)	38.5人
R4. 8	26日	757人	50人(6.6%)	495人(65.4%)	212人(28.0%)	28.0人
R4. 9	25日	926人	60人(6.5%)	610人(65.9%)	256人(27.6%)	37.0人
R4. 10	26日	993人	71人(7.2%)	663人(66.8%)	259人(26.1%)	38.2人
R4. 11	26日	978人	79人(8.1%)	643人(65.7%)	256人(26.2%)	37.6人
R4. 12	24日	896人	71人(7.9%)	578人(64.5%)	247人(27.6%)	37.3人
R5. 1	23日	775人	65人(8.4%)	485人(62.5%)	226人(29.1%)	33.7人
R5. 2	24日	650人	68人(10.5%)	412人(63.4%)	170人(26.2%)	31.0人
R5. 3	27日	960人	97人(10.1%)	586人(61.0%)	277人(28.9%)	35.6人
合計	305日	10,899人	864人 (7.9%)	7,230人 (66.4%)	2,806人 (25.7%)	35.7人

(2)美咲町柵原デイサービスセンターかしのき荘

①事業実施の概要

- ・利用定員 25人
- ・営業日 月曜日～土曜日(12月29日～1月3日を除く。)
- ・営業時間 午前9時～午後5時
- ・職員体制 常勤職員3名、非常勤職員8名
管理者1名(兼務)、生活相談員3名(兼務3名)、看護職員2名(兼務2名)、
機能訓練指導員2名(兼務2名)、介護職員9名(兼務5名)、
調理員2名

②事業実施状況

i) 介護保険事業

次のとおり、介護保険による事業を実施しました。 ※稼働率 78.4%

年月	営業日	利用者 数合計	現行相当	要介護 I～II	要介護 III～IV	1日 平均
R4.4	26日	519人	35人(6.7%)	267人(51.4%)	217人(41.8%)	20.0人
R4.5	26日	515人	38人(7.4%)	272人(52.8%)	205人(39.8%)	19.8人
R4.6	26日	532人	38人(7.1%)	293人(55.1%)	201人(37.8%)	20.5人
R4.7	26日	547人	38人(6.9%)	309人(56.5%)	200人(36.6%)	21.0人
R4.8	27日	509人	38人(7.5%)	304人(59.7%)	167人(32.8%)	18.9人
R4.9	25日	497人	37人(7.4%)	284人(57.1%)	176人(35.4%)	19.9人
R4.10	26日	525人	37人(7.0%)	287人(54.7%)	201人(38.3%)	20.2人
R4.11	26日	531人	30人(5.6%)	324人(61.0%)	177人(33.3%)	20.4人
R4.12	24日	513人	24人(4.7%)	300人(58.5%)	189人(36.8%)	21.4人
R5.1	21日	389人	23人(5.9%)	225人(57.8%)	141人(36.2%)	18.5人
R5.2	24日	399人	28人(7.0%)	229人(57.4%)	142人(35.6%)	16.6人
R5.3	27日	483人	32人(6.6%)	305人(63.1%)	146人(30.2%)	17.9人
合計	304日	5,959人	398人 (6.7%)	3,399人 (57.0%)	2,162人 (36.3%)	19.6人

(3)美咲町福祉の里 あさひが丘

①事業実施の概要

- ・利用定員 25人
- ・営業日 月曜日～土曜日(12月29日～1月3日を除く。)
- ・営業時間 午前9時～午後5時
- ・職員体制 常勤職員5名、非常勤職員7名
管理者1名(兼務)、生活相談員3名(兼務3名)、看護職員2名(兼務2名)、
機能訓練指導員2名(兼務2名)、介護職員6名(兼務5名)、介護助手1名、
調理員2名(兼務1名)、運転職員2名

②事業実施状況

i)介護保険事業

次のとおり、介護保険による事業を実施しました。 ※稼働率 58.1%

年月	営業日	利用者 数合計	現行相当	要介護 I～II	要介護 III～IV	1日 平均
R4.4	26日	385人	74人(19.2%)	237人(61.6%)	74人(19.2%)	14.8人
R4.5	26日	356人	73人(20.5%)	219人(61.5%)	64人(18.0%)	13.7人
R4.6	26日	372人	73人(19.6%)	219人(58.9%)	80人(21.5%)	14.3人
R4.7	26日	384人	75人(19.5%)	217人(56.5%)	92人(24.0%)	14.8人
R4.8	27日	359人	76人(21.2%)	203人(56.5%)	80人(22.3%)	13.3人
R4.9	26日	375人	78人(20.8%)	191人(50.9%)	106人(28.3%)	14.4人
R4.10	26日	381人	69人(18.1%)	214人(56.2%)	98人(25.7%)	14.7人
R4.11	26日	360人	78人(21.7%)	214人(59.4%)	68人(18.9%)	13.8人
R4.12	24日	333人	78人(23.4%)	193人(58.0%)	62人(18.6%)	13.9人
R5.1	23日	342人	72人(21.1%)	209人(61.1%)	61人(17.8%)	14.9人
R5.2	24日	375人	68人(18.1%)	217人(57.9%)	90人(24.0%)	15.6人
R5.3	27日	439人	76人(17.3%)	254人(57.9%)	109人(24.8%)	16.3人
合計	307日	4,461人	890人 (20.0%)	2,587人 (58.0%)	984人 (22.0%)	14.5人

2.訪問介護事業(ホームヘルプ事業)

日常生活に支援が必要な人、要介護状態にある人が、できる限り住み慣れた地域・我が家において、安心して日常生活を過ごすことができるよう、介護保険による訪問介護事業に積極的に取り組みました。また、美咲町からの委託事業である「生活管理指導事業」にも取り組みました。さらに障害者総合支援事業による障がい者の訪問介護サービス事業にも積極的に取り組みました。

(事業実施事業所)

(1)ヘルパーステーション美咲

①事業実施の概要

- ・営業日 月曜日～日曜日
- ・営業時間 午前8時～午後6時30分
- ・職員体制 常勤職員4名、非常勤職員8名
 管理者1名(兼務)、管理者代理1名(兼務)、サービス提供責任者4名(兼務4名)、
 訪問介護職員12名(兼務4名)

②事業実施状況

i)介護保険事業

次のとおり、介護保険による事業を実施しました。

年月	営業日	利用件数 合計	現行相当	要介護 I～II	要介護 III～IV	1日 平均
R4.4	30日	820件	70件(8.5%)	402件(49.0%)	348件(42.4%)	27.3件
R4.5	31日	798件	68件(8.5%)	409件(51.3%)	321件(40.2%)	25.7件
R4.6	30日	865件	99件(11.4%)	380件(43.9%)	386件(44.6%)	28.8件
R4.7	31日	888件	90件(10.1%)	393件(44.3%)	405件(45.6%)	28.6件
R4.8	31日	824件	84件(10.2%)	371件(45.0%)	369件(44.8%)	26.6件
R4.9	30日	889件	66件(7.4%)	391件(44.0%)	432件(48.6%)	29.6件
R4.10	31日	834件	60件(7.2%)	405件(48.6%)	369件(44.2%)	26.9件
R4.11	30日	802件	63件(7.9%)	373件(46.5%)	366件(45.6%)	26.7件
R4.12	31日	768件	60件(7.8%)	351件(45.7%)	357件(46.5%)	24.8件
R5.1	31日	662件	56件(8.5%)	285件(43.1%)	321件(48.5%)	21.4件
R5.2	28日	686件	52件(7.6%)	279件(40.7%)	355件(51.7%)	24.5件
R5.3	31日	694件	73件(10.5%)	256件(36.9%)	365件(52.6%)	22.4件
合計	365日	9,530人	841人 (8.8%)	4,295人 (45.1%)	4,394人 (46.1%)	26.1件

ii)障害者総合支援事業

障がい者への訪問介護サービスとして、次のとおり、サービスを実施しました。

事業名	営業日	利用件数
障害者総合支援	313日	430件

3.居宅介護支援事業(ケアマネジメント事業)

介護保険によるサービスが適切に利用でき、在宅での生活を支援していくため、居宅介護支援事業に積極的に取り組みました。

(事業実施事業所)

(1)中央居宅介護支援事業所 常勤職員5名

管理者1名(兼務)、介護支援専門員5名(兼務1名)

(2)旭居宅介護支援事業所 常勤職員1名

管理者1名(兼務)、介護支援専門員1名(兼務1名)

①事業実施の状況

i)介護保険事業

事業所	利用件数	要介護 I～II	要介護 III～V	要介護 月平均
中央居宅介護支援事業所	2,289件	1,707件	582件	190.8件
旭居宅介護支援事業所	427件	312件	115件	35.6件

ii)訪問調査・予防プランの実施

町からの委託を受け、介護保険の要介護認定のための訪問調査等にも積極的に取り組みました。

・訪問調査件数 177件(中央 141件、旭 36件)

・予防プラン件数 14件(中央 14件、旭 0件)

4.施設サービス事業(地域密着型特養事業)

住み慣れた地域で、可能な限り安心して日常生活が送れるよう、地域密着型特別養護老人ホームの運営に積極的に取り組みました。

(事業実施事業所)

(1) 地域密着型特別養護老人ホーム あさひが丘

①事業実施の概要

- ・長期入所利用定員 25名
- ・短期入所利用定員 4名
- ・居室体制 個室 9室 2人部屋 10室
- ・職員体制 常勤職員13名、非常勤職員11名

施設長1名、生活相談員3名(兼務3名)、看護職員2名(兼務2名)、
介護支援専門員1名(兼務1名)、介護職員11名(兼務2名)、
介護助手3名、栄養士1名(兼務1名)、調理職員3名(兼務1名)、
宿直職員3名

②事業実施の状況

形態	延べ利用者数	要介護Ⅰ	要介護Ⅱ	要介護Ⅲ	要介護Ⅳ	要介護Ⅴ
長期入所	8,926人	—	5人	1,649人	3,676人	3,596人
短期入所	454人	52人	66人	59人	263人	14人

○長期入所

年間稼働率 97.8%
1日平均人数 24.5人
平均人数対前年比 99.8%

○短期入所

年間稼働率 31.1%
1日平均人数 1.2人
平均人数対前年比 169.4%